

PowerChute® Business Edition v9.0.1 Basic版

補足説明書 日立編

【形名：GQS-VSU7BS901N】

EMA0014939-A

PowerChute® Business Edition v9.0.1 Basic版 補足説明書 日立編

はじめに

このたびは、PowerChute® Business Edition v9.0.1 Basic版をお買い上げいただきまして誠にありがとうございます。

本書は、PowerChute® Business Edition v9.0.1 Basic版をご使用になる際の注意事項をまとめたものです。ご使用の前に、必ずお読みくださいますようお願い致します。

本書では以降、表記を次のとおりに省略させていただきます。

表記	対象
PCBE	PowerChute® Business Edition v9.0.1 Basic版
UPS装置	無停電電源装置
UPS拡張ユニット	UPSインタフェース拡張ユニット UPSインタフェース拡張ボード
Windows 2003 (32ビット)	Microsoft® Windows Server™ 2003, Standard Edition 日本語版 Microsoft® Windows Server™ 2003, Enterprise Edition 日本語版
Windows 2003 R2 (32ビット)	Microsoft® Windows Server™ 2003 R2, Standard Edition 日本語版 Microsoft® Windows Server™ 2003 R2, Enterprise Edition 日本語版
Windows 2003 x64	Microsoft® Windows Server™ 2003, Standard x64 Edition 日本語版 Microsoft® Windows Server™ 2003, Enterprise x64 Edition 日本語版
Windows 2003 R2 x64	Microsoft® Windows Server™ 2003 R2, Standard x64 Edition 日本語版 Microsoft® Windows Server™ 2003 R2, Enterprise x64 Edition 日本語版
Windows 2003	Microsoft® Windows Server™ 2003, Standard Edition 日本語版 Microsoft® Windows Server™ 2003, Enterprise Edition 日本語版 Microsoft® Windows Server™ 2003, Standard x64 Edition 日本語版 Microsoft® Windows Server™ 2003, Enterprise x64 Edition 日本語版
Windows 2003 R2	Microsoft® Windows Server™ 2003 R2, Standard Edition 日本語版 Microsoft® Windows Server™ 2003 R2, Enterprise Edition 日本語版 Microsoft® Windows Server™ 2003 R2, Standard x64 Edition 日本語版 Microsoft® Windows Server™ 2003 R2, Enterprise x64 Edition 日本語版
Windows 2008 32bit版	Microsoft® Windows Server® 2008 Standard 32bit版 日本語版 Microsoft® Windows Server® 2008 Enterprise 32bit版 日本語版
Windows 2008 64bit版	Microsoft® Windows Server® 2008 Standard 64bit版 日本語版 Microsoft® Windows Server® 2008 Standard without Hyper-V 64bit版 日本語版 Microsoft® Windows Server® 2008 Enterprise 64bit版 日本語版 Microsoft® Windows Server® 2008 Enterprise without Hyper-V 64bit版 日本語版
Windows 2008	Microsoft® Windows Server® 2008 Standard 32bit版 日本語版 Microsoft® Windows Server® 2008 Enterprise 32bit版 日本語版 Microsoft® Windows Server® 2008 Datacenter 32bit版 日本語版 Microsoft® Windows Server® 2008 Standard 64bit版 日本語版 Microsoft® Windows Server® 2008 Standard without Hyper-V 64bit版 日本語版 Microsoft® Windows Server® 2008 Enterprise 64bit版 日本語版 Microsoft® Windows Server® 2008 Enterprise without Hyper-V 64bit版 日本語版 Microsoft® Windows Server® 2008 Datacenter 64bit版 日本語版 Microsoft® Windows Server® 2008 Datacenter without Hyper-V 64bit版 日本語版
Windows 2008 R2	Microsoft® Windows Server® 2008 R2 Standard 64bit版 日本語版

	<p>Microsoft® Windows Server® 2008 R2 Enterprise 64bit 版 日本語版</p> <p>Microsoft® Windows Server® 2008 R2 Datacenter 64bit 版 日本語版</p> <p>Microsoft® Windows Server® 2008 R2 Standard 64bit 版 日本語版</p> <p>ServicePack 1</p> <p>Microsoft® Windows Server® 2008 R2 Enterprise 64bit 版 日本語版</p> <p>ServicePack 1</p> <p>Microsoft® Windows Server® 2008 R2 Datacenter 64bit版 日本語版</p> <p>ServicePack 1</p>
Windows	<p>Microsoft® Windows Server™ 2003, Standard Edition 日本語版</p> <p>Microsoft® Windows Server™ 2003, Enterprise Edition 日本語版</p> <p>Microsoft® Windows Server™ 2003, Standard x64 Edition 日本語版</p> <p>Microsoft® Windows Server™ 2003, Enterprise x64 Edition 日本語版</p> <p>Microsoft® Windows Server™ 2003 R2, Standard Edition 日本語版</p> <p>Microsoft® Windows Server™ 2003 R2, Enterprise Edition 日本語版</p> <p>Microsoft® Windows Server™ 2003 R2, Standard x64 Edition 日本語版</p> <p>Microsoft® Windows Server™ 2003 R2, Enterprise x64 Edition 日本語版</p> <p>Microsoft® Windows Server® 2008 Standard 32bit版 日本語版</p> <p>Microsoft® Windows Server® 2008 Enterprise 32bit版 日本語版</p> <p>Microsoft® Windows Server® 2008 Datacenter 32bit版 日本語版</p> <p>Microsoft® Windows Server® 2008 Standard 64bit版 日本語版</p> <p>Microsoft® Windows Server® 2008 Standard without Hyper-V 64bit版 日本語版</p> <p>Microsoft® Windows Server® 2008 Enterprise 64bit版 日本語版</p> <p>Microsoft® Windows Server® 2008 Enterprise without Hyper-V 64bit版 日本語版</p> <p>Microsoft® Windows Server® 2008 Datacenter 64bit版 日本語版</p> <p>Microsoft® Windows Server® 2008 Datacenter without Hyper-V 64bit版 日本語版</p> <p>Microsoft® Windows Server® 2008 R2 Standard 64bit 版 日本語版</p> <p>Microsoft® Windows Server® 2008 R2 Enterprise 64bit 版 日本語版</p> <p>Microsoft® Windows Server® 2008 R2 Datacenter 64bit 版 日本語版</p> <p>Microsoft® Windows Server® 2008 R2 Standard 64bit 版 日本語版</p> <p>ServicePack 1</p> <p>Microsoft® Windows Server® 2008 R2 Enterprise 64bit 版 日本語版</p> <p>ServicePack 1</p> <p>Microsoft® Windows Server® 2008 R2 Datacenter 64bit版 日本語版</p> <p>ServicePack 1</p>
SP	ServicePack

ご注意：本書は、改良のため予告なしに変更することがあります。

PowerChuteは、American Power Conversion Corporationの米国およびその他の国における登録商標です。

Microsoft, Windows は米国Microsoft Corporationの米国およびその他の国における登録商標です。その他記載されている製品名は登録商標または商標です。

目 次

1 . 適用機種と接続構成	1
2 . 適用OS	1
3 . 本製品の概要	1
3 . 1 コンポーネント	1
3 . 2 コンポーネントの配置	2
4 . インストール	2
4 . 1 導入時の注意事項	2
4 . 2 PCBE エージェントのインストール	3
4 . 2 . 1 インストール前の準備作業	3
4 . 2 . 2 インストール手順	5
4 . 3 PCBE サーバのインストール	7
4 . 3 . 1 インストール前の準備作業	7
4 . 3 . 2 インストール手順	7
4 . 4 PCBE コンソールのインストール	9
4 . 4 . 1 インストール前の準備作業	9
4 . 4 . 2 インストール手順	9
5 . アンインストール	10
6 . 使用上の注意事項	12
6 . 1 PCBE 全般について	12
6 . 2 PCBE コンソール	16
6 . 2 . 1 デバイスのプロパティ	16
6 . 2 . 2 リスクアセスメント	22
6 . 3 PCBE サーバ	23
6 . 4 PCBE エージェント	23
6 . 5 PCBE エージェント WebUI	23
7 . ユーティリティ	25
7 . 1 UPSSleep	25
7 . 2 Event Log Exporter	25
8 . UPS 拡張ユニット使用時の電源障害発生時シャットダウンシーケンスについて	26
8 . 1 コンファームモード(*1)	26
8 . 2 タイマーモード(*1)	28
8 . 3 UPS 拡張ユニット使用時の一般的な留意事項	29
9 . スケジュールシャットダウンシーケンスについて	30
9 . 1 UPS 拡張ユニット未使用時	30
9 . 2 UPS 拡張ユニット使用時	31
10 . その他	32
10 . 1 電源保護方針による設定値の自動設定	32
10 . 2 PowerChute Business Edition v6.1.2 アンインストール手順	33

1. 適用機種と接続構成

本製品は、以下のシステム装置と接続構成にてご使用になることができます。

[システム装置名]

日立アドバンストサーバ**HA8000**シリーズ

補足：適用機種の詳細については、弊社担当営業にお問い合わせ下さい。

[接続構成]

シリアル接続

制限：USB 接続構成は、未サポートです。

[UPS拡張ユニット]

名称	形式	仕様
UPS 拡張ユニット	x x - B U A 7 8 0 / 7 8 1	ShareUPS 8 ポート
UPS I/F 拡張ボード	x x - B U A 7 0 0 / 7 0 1	Expander ボード 2 ポート

注：日立型式：G Q - B U R A x x x x N N x のUPSは上記のUPS拡張ユニット、拡張ボードをご使用することができません。

2. 適用OS

本製品は、**Microsoft® Windows Server®**上で、ご使用になることができます。

尚、**PowerChute Business Edition** コンソール機能については、下記OS上でもご使用になることができます。

- ・ **Microsoft® Windows® XP Professional** 日本語版 **Service Pack 2**
- ・ **Microsoft® Windows® Vista Business** 日本語版

注意：

Hyper-V を使用する環境では **PowerChute® Business Edition** は未サポートとなります。

補足：

本製品に同梱されている、Linux / RadHat 用モジュールは未サポートです。

適用OSのバージョンの詳細については、弊社担当営業にお問い合わせ下さい。

3. 本製品の概要

3. 1 コンポーネント

本製品は、以下の3つのコンポーネントで構成されます。

(1) **PowerChute Business Edition** エージェント(以下、**PCBE** エージェント)

UPS装置のステータス監視機能および停電時、UPS装置に接続されているシステム装置のシャットダウン機能を提供します。**PCBE** エージェントは、UPS装置に直接接続されている各システム装置上にインストールする必要があります。

(2) **PowerChute Business Edition** サーバ(以下、**PCBE** サーバ)

PCBE エージェントの設定と監視を行います。**PCBE** サーバは **PCBE** エージェントから情報を収集してイベントの通知を行い、また、**PowerChute Business Edition** コンソールとの通信を行いません。

PCBE サーバは、最大 **25** 台の **PCBE** エージェントを管理することができます。**PCBE** サーバと

PCBE エージェントは、それぞれのコンポーネントを、インストール時に設定する「ユーザ名」と「パスワード」を対として1つの管理グループ形成します。1つの管理グループ内に複数のPCBE サーバを設置することはできません。

- (3) **PowerChute Business Edition** コンソール(以下、PCBE コンソール)
PCBE サーバに接続してPCBE エージェントの管理と設定を行います。

3. 2 コンポーネントの配置

本製品が提供する3つのコンポーネントは、以下の組み合わせで使用することができます。

- (1) PCBE エージェント/PCBE サーバ/PCBE コンソールをすべて別のシステム装置にインストールする
- (2) PCBE エージェント/PCBE サーバ/PCBE コンソールをすべて同一のシステム装置にインストールする
- (3) PCBE サーバと PCBE コンソールを同一のシステム装置にインストールする
- (4) PCBE エージェントと PCBE サーバを同一のシステム装置にインストールする
- (5) PCBE エージェントと PCBE コンソールを同一のシステム装置にインストールする

障害発生時のUPS装置との対応は、すべてPCBE エージェントが行います。従って、PCBE サーバ、PCBE コンソールは常時起動させておく必要はありません。

4 . インストール

本製品をインストールする前にCD-ROMに格納されている以下のドキュメントを必ずお読みください。

「PowerChute Business Edition - リリースノート」

格納場所： ¥Windows¥Bin¥relnotes_jp.chm (HTML Help 形式)

「PowerChute Business Edition - スタートアップガイド」

格納場所： ¥Windows¥Bin¥getstart_jp.chm (HTML Help 形式)

「PowerChute Business Edition - ウィザード」

格納場所： ¥Windows¥Bin¥wizard_jp.chm (HTML Help 形式)

4. 1 導入時の注意事項

- ・PCBE エージェントと PowerChute plus または、OS 標準 UPS サービスは同一システム装置上で同時に使用することはできません。Windows2003/2003R2 環境にて、Windows 標準のUPS サービスを使用する場合は、本製品をアンインストールしてください。
- ・PowerChute Business Edition では、異なるバージョンのコンポーネントが混在する環境はサポートされておりません。v9.0.1 エージェントはv9.0.1 サーバのデバイスリストに追加され、v9.0.1 コンソールから監視を行ってください。
- ・Windows2003/2003R2 環境にPCBE エージェントをインストールすると、「電源管理」から「UPS」タグが削除されます。
- ・「UPS のコンピュータ・インターフェイス・ポート」と「UPS 拡張ユニット」から複数のシステム装置へ接続している場合、停電が長引いた場合でも全てのシステム装置を安全にシャットダウンさせるためには、接続したシステム装置それぞれにPCBE エージェントをインストールする必要があります。
- ・PowerChute Business Edition の v6.1.2 / v7.0 Basic 版 / v7.0.4 Basic 版 / v7.0.5 Basic 版 / v8.0 Basic 版 / v8.0.1 Basic 版から v9.0.1 Basic 版 へのアップデートは未サポートです。必ず、v6.1.2 / v7.0 Basic 版 / v7.0.4 Basic 版 / v7.0.5 Basic 版 / v8.0 Basic 版/ v8.0.1 Basic をアンインストールしてから、v9.0.1 Basic 版 をインストールしてください。
v6.1.2 のアンインストール方法については、10. 2項を参照してください。

v6.1.2 のアンインストール後は、必ずリブートを行ってください。

v6.1.2 のアンインストール時にリブートを行わないと、次回リブートで「APCsnmp.dll」が削除されてしまいます。（「APCsnmp.dll」は、リブートのタイミングで削除される仕様のため）システム装置に「SNMP Service」がインストールされている場合、v6.1.2 をアンインストールすると「SNMP Service」もアンインストールされる場合があります。v6.1.2 のアンインストール後に「SNMP Service」をご使用になる場合には「SNMP Service」がサービスに存在しているかを確認し、アンインストールされている場合には、以下の手順に従って、再度「SNMP Service」をインストールしてください。

- ① [スタート]->[設定]->[コントロール パネル]->
[アプリケーションの追加と削除] ([プログラムの追加と削除])
- ② [Windows コンポーネントの追加と削除]を選択します。
- ③ [Windows コンポーネント ウィザード]が起動したら、一覧の中から
「管理とモニタツール」を選択し、[詳細]をクリックします。
- ④ 「簡易ネットワーク管理プロトコル(SNMP)」のチェックを外し
[OK]をクリックします。
- ⑤ [次へ(N)] をクリックします。
- ⑥ 「Windows コンポーネント ウィザードの完了」画面が表示されたら、
[完了]をクリックします。

- ⑦ 「アプリケーションの追加と削除」 ([プログラムの追加と削除])
画面で、再び[Windows コンポーネントの追加と削除]を選択します。
- ⑧ [Windows コンポーネント ウィザード]が起動したら、一覧の中から
「管理とモニタツール」を選択し、[詳細]をクリックします。
- ⑨ 「簡易ネットワーク管理プロトコル(SNMP)」のチェックを入れて
[OK]をクリックします。
- ⑩ [次へ(N)] をクリックします。
- ⑪ 「ファイルが必要」画面が表示された場合には、指示に従い
セットアップ CD-ROM をセットし、CD-ROM の「i386」ディレクトリを
指定して、[次へ(N)]をクリックします。
- ⑫ 「Windows コンポーネント ウィザードの完了」画面が表示されたら、
[完了]をクリックします。
- ⑬ [スタート]->[設定]->[コントロール パネル]->[管理ツール]を開き
[サービス]を起動します。
- ⑭ 一覧で、「SNMP Service」と「SNMP Trap Service」が 開始 状態と
なっていることを確認してください。

v7.0 / v7.0.4 / v7.0.5 / v8.0 / v8.0.1 のアンインストール方法については、5 項 (v9.0.1 のアンインストール) と同じ手順になります。

4. 2 PCBE エージェントのインストール

4. 2. 1 インストール前の準備作業

- (1) 画面の色の設定は、256 色よりも多い色数を設定しておいてください。
- (2) PCBE エージェントと PowerChute plus または、OS 標準 UPS サービスは同一システム装置上で同時に使用することはできません。

- ・ **PowerChute plus** がインストールされている場合には、アンインストールを行ってください。
- ・ **Win2003/2003R2** にて、**OS** 標準の **UPS** サービスが設定されている場合には、設定を解除してください。確認方法と解除方法は以下の通りです。

- ① コントロールパネルの「電源オプション」の **UPS** タブで「選択」ボタンをクリックする。
- ② 「**UPS** の選択」ウィンドウで「製造元の選択」に「なし」が選ばれていることを確認し、「キャンセル」ボタンをクリックする。
- ③ 「**UPS** の選択」ウィンドウで「製造元の選択」が設定されている場合は、「なし」を選び「完了」ボタンをクリックする。

(3) シリアルポートの設定

UPS 接続を行なうシリアルポートに対して、以下の設定を行なってください。

パラメータ	設定
ボーレート(ビット/秒)	2400
データビット	8
パリティ	なし
ストップビット	1
フロー制御	XON/OFF

〔設定手順〕 (**Windows 2003/2003R2/2008** の場合)

- ① コントロールパネルの「システム」アイコンをダブルクリックする。
- ② **Win2003/2003R2** の場合は④へ進む。
- ③ 「設定と変更」をクリックする。
- ④ [システムのプロパティ]で「ハードウェア」タブを選択し、[デバイスマネージャ]をクリックする。
- ⑤ 「ポート(**COM** と **LPT**)」をクリックし、**UPS** ケーブルを接続するシリアルポートをダブルクリックする。
- ⑥ 「ポートの設定」タブを選択し、各項目を上記表の通り設定する。
- ⑦ [詳細設定]ボタンをクリックし、「**FIFO** バッファを使用する(**16550** 互換の **UART** が必要)」のチェックボックスにチェックを入れ、[OK]ボタンを押す。
- ⑧ [OK]ボタンを押す。

〔設定手順〕 (**Windows 2008 R2** の場合)

- ① コントロールパネルの「ハードウェア」アイコンをクリックする。
- ② 「デバイスマネージャ」をクリックする。
- ③ 「ポート(**COM** と **LPT**)」をクリックし、**UPS** ケーブルを接続するシリアルポートをダブルクリックする。
- ④ 「ポートの設定」タブを選択し、各項目を上記表の通り設定する。
- ⑤ [OK]ボタンを押す。
- ⑥ 「ポート(**COM** と **LPT**)」をクリックし、**UPS** ケーブルを接続するシリアルポートをダブルクリックする。
- ⑦ [詳細設定]ボタンをクリックし、「**FIFO** バッファを使用する(**16550** 互換の **UART** が必要)」のチェックボックスにチェックを入れ、[OK]ボタンを押す。
- ⑧ [OK]ボタンを押す。

補足：

シリアルポート接続の設定変更後は、変更した設定値が正常に適用されているかを、再度確認してください。正常に適用されていない場合は、再度、〔設定手順〕を実施してください。

- (4) **PCBE** コンソールをインストールするシステム装置の **Windows** のネットワーク設定(**IP** アドレス) はインストール前に完了させておいてください。
- (5) **PCBE** コンソールをインストールする前に、**LAN** の状態を「有効」(システム装置に **LAN** ケーブルを接続し、先につながる **HUB** も稼動状態にする。**DHCP** より **IP** アドレス取得が行われる場合には、**DHCP** によるアドレス取得がされた状態にする。) にしておいてください。

4. 2. 2 インストール手順

- (1) インストール前の準備作業が完了したら、システム装置をシャットダウンして、システム装置の電源を **OFF** する。
- (2) **UPS** 接続ケーブル (本製品同梱のケーブル：黒色) を **UPS** 装置とシステム装置に接続する。システム装置に接続する場合、先に行なったシリアルポート設定と同じポートにケーブルを接続してください。
UPS 拡張ユニットの **Basic Port** とシステム装置を接続する場合には、**Basic Port** 接続用ケーブル (灰色) を使用してください。
- (3) システム装置の電源を入れる。
- (4) **Windows** が起動したら、「**Administrator**」でログインする。
- (5) **PCBE** の **CD-ROM** を **CD-ROM** 装置に入れる。
- (6) しばらくすると、「**APC PowerChute Business Edition** のセットアップ」画面が起動します。画面が表示されない場合には、[スタート]->[ファイル名を指定して実行]で「**F:¥Windows¥setup.exe**」と入力し、[**OK**]をクリックしてください。
(**F:** は、**CD-ROM** ドライブ名)
- (7) [製品のインストールを] をクリックします。
- (8) 「**Windows** エージェント」の[**Install**]ボタンをクリックします。
- (9) 以降、画面の指示に従いインストールを行います。
- (10) 以下の画面が表示されたら、接続している **UPS** 装置に応じて以下の手順でインストールを行ってください。



【 **SmartUPS** または **UPS** 拡張ユニット(**ShareUPS**)の **AdvancedPort** に接続している場合】
[はい] をクリックして、(11) に進みます。

【 **UPS** 拡張ユニット(**ShareUPS**)の **Basic Port** に接続している場合】

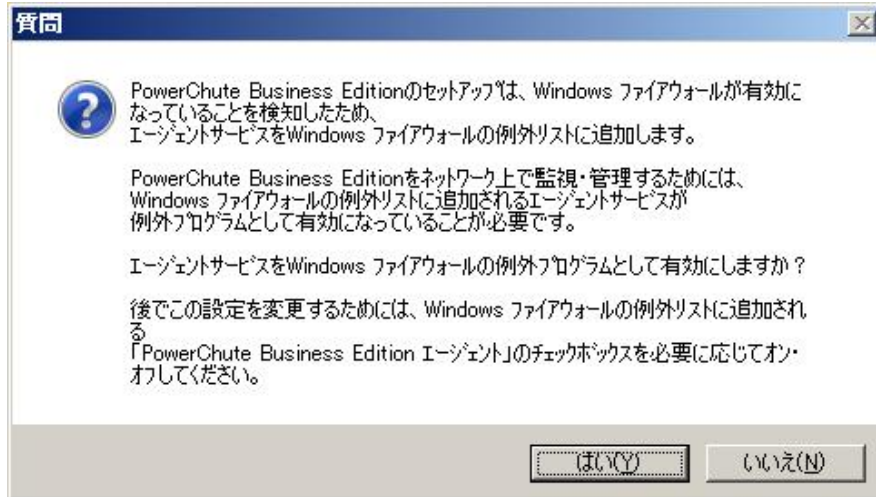
- ・ [いいえ] をクリックします。
- ・ 「**UPS** タイプ」のプルダウンから 「**Share-UPS** のベーシックポート」を選択します。
- ・ 「通信ポート」のプルダウンから接続しているポートを選択します。
- ・ [次へ >] ボタンをクリックして、(11)に進みます。

【 **UPS I/F** 拡張ボード (**Expander** ポート) に接続している場合】

- ・ [いいえ] をクリックします。
- ・ 「**UPS** タイプ」のプルダウンから 「**Interface Expander** のベーシックポート」を選択します。
- ・ 「通信ポート」のプルダウンから接続しているポートを選択します。

- ・ [次へ >] ボタンをクリックして、(11)に進みます。

(11) Windows 2003 SP1 以降(Windows 2003 R2 を含む) / 2008 / 2008 R2 の環境において Windows ファイアウォールが有効になっている場合は、下記のメッセージが表示されます。ネットワーク監視を行う場合は、「はい」をクリックしてください。



(12) 「Insatall Shield Wizard が完了しました」が表示されたら、[完了] ボタンをクリックします。

補足：

Windows 2003 SP1 以降(Windows 2003 R2 を含む) / 2008 / 2008 R2 の環境において、PCBE エージェントをインストール後に、Windows ファイアウォール機能を有効にした場合には、ネットワーク監視をする際に、下記の設定が必要となります。

[Windows 2003 SP1 以降(Windows 2003 R2 を含む) / 2008 の場合]

- ① [スタート] - [コントロールパネル] - [Windows ファイアウォール]をクリックします。
- ② Win2003/2003R2 の場合は④へ進みます。
- ③ [設定の変更]をクリックします。
- ④ [例外]タブ選択します。
- ⑤ [プログラムの追加]をクリックします。
- ⑥ 下記のファイルを指定、[OK] ボタンをクリックします。
 <PCBE インストールフォルダ>\¥APC¥PowerChute Business Edition¥agent¥pbeagent.exe
- ⑦ 一覧に「PowerChuteBusinessEdition エージェント」が表示され、チェックボックスがオンになっていることを確認し、[OK] ボタンをクリックします。
- ⑧ 「APCPBEAgent」サービス (pbeagent.exe) を再起動します (またはシステムを再起動します)。

[Windows 2008 R2 の場合]

- ① [スタート] - [コントロールパネル] - [システムのセキュリティ] - [Windows ファイアウォール]をクリックします。
- ② [Windows ファイアウォールを介したプログラムまたは機能を許可する]をクリックします。
- ③ [別のプログラムの許可]をクリックします。
- ④ 下記のファイルを指定、[追加] ボタンをクリックします。
 <PCBE インストールフォルダ>\¥APC¥PowerChute Business Edition¥agent¥pbeagent.exe
- ⑤ 一覧に「PowerChuteBusinessEdition エージェント」が表示され、チェックボックスがオンになっていることを確認し、[OK] ボタンをクリックします。

- ⑥ 「APCPBEAgent」サービス (pbeagent.exe) を再起動します (またはシステムを再起動します)。

4. 3 PCBE サーバのインストール

4. 3. 1 インストール前の準備作業

- (1) PCBE サーバをインストールするシステム装置の **Windows** のネットワーク設定(IP アドレス)はインストール前に完了させておいてください。
- (2) PCBE サーバをインストールする前に、**LAN** の状態を「有効」(システム装置に **LAN** ケーブルを接続し、先につながる **HUB** も稼動状態にする。DHCP より IP アドレス取得が行われる場合には、**DHCP** によるアドレス取得がされた状態にする。) にし、かつネットワークアクセス可能な状態にしておいてください。

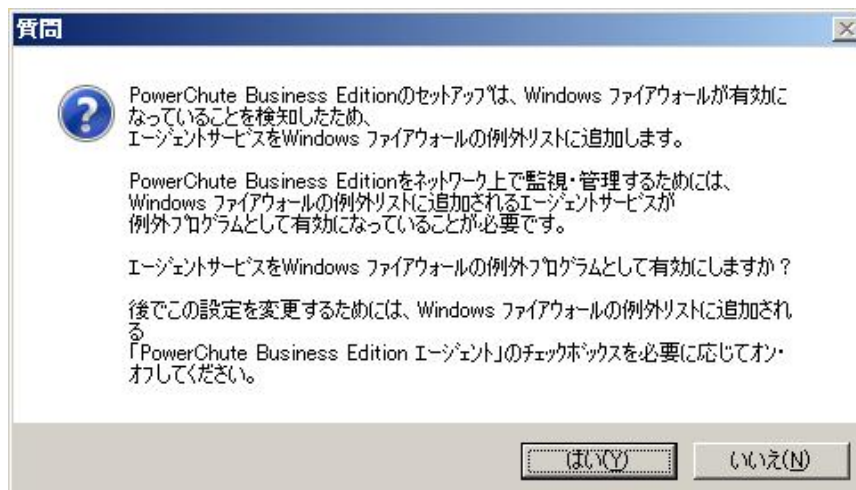
インストール時以下のメッセージが表示される場合、下記のネットワーク設定を確認してください。
「ネットワークカード/アダプタが検出されないか、無効になっています。 ネットワークカード/アダプタが使用可能になるまで、**PowerChute Business Edition** サーバのインストールを無効にします。 ご使用のネットワークカード/アダプタの設定を確認してネットワークカード/アダプタを有効にしてください。その後、セットアップを再実行してください。」

ネットワーク設定：

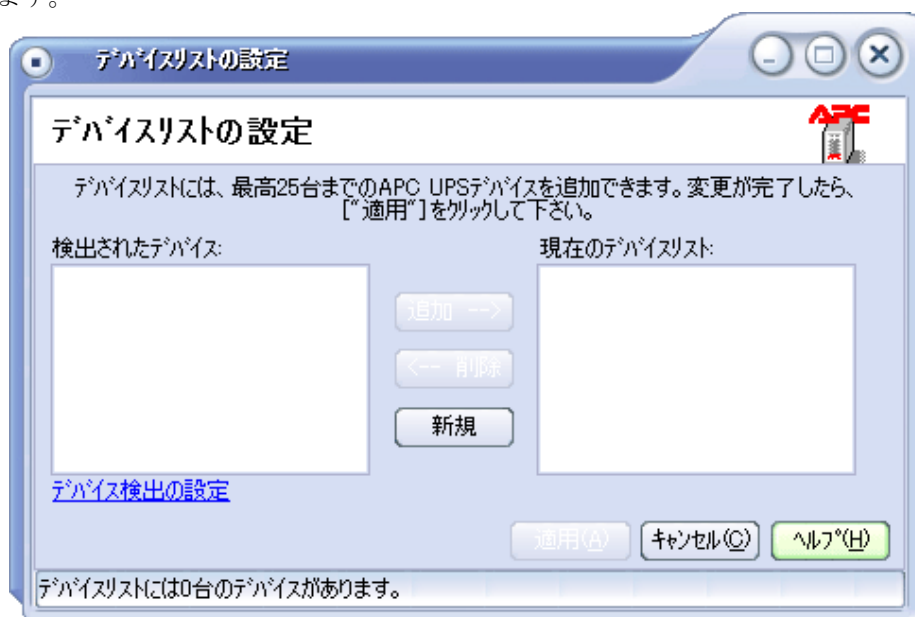
- ・デフォルトゲートウェイに **IP** アドレスが設定されており、そのデフォルトゲートウェイの **IP** アドレスにシステム装置がアクセスが可能。
- ・デフォルトゲートウェイに **IP** アドレスが設定されていない場合、システム装置からネットワーク上の他のシステム装置へ **ping** 等のネットワークコマンドでアクセスが可能。

4. 3. 2 インストール手順

- (1) 「**Administrator**」でログインする。
- (2) PCBE の **CD-ROM** を **CD-ROM** 装置に入れる。
- (3) しばらくすると、「**APC PowerChute Business Edition** のセットアップ」画面が起動します。画面が表示されない場合には、[スタート]->[ファイル名を指定して実行]で「**F:¥Windows¥setup.exe**」と入力し、[OK]をクリックしてください。
(F: は、**CD-ROM** ドライブ名)
- (4) [製品のインストール.] をクリックします。
- (5) 「**Windows** サーバ」の[Install]ボタンをクリックします。
- (6) 以降、画面の指示に従いインストールを行います。
- (7) **Windows 2003 SP1** 以降(**Windows 2003 R2** を含む) / **2008** / **2008 R2** の環境において **Windows** ファイアウォールが有効になっている場合は、下記のメッセージが表示されます。ネットワーク監視を行う場合は、「はい」を押してください。



- (8) 「Insatall Shield Wizard が完了しました」が表示されたら、[完了 >] ボタンをクリックします。
- (9) 続いて、PCBE サーバへのログインが自動的に実行されます。
- (10) 「設定プロファイルの作成」画面が表示されたら、[OK] ボタンをクリックします。
- (11) 「通信手段の設定」画面が表示されたら、1つ以上の通知手段を選択して、[次へ >] ボタンをクリックしてください。
- (12) 「電源保護方針」選択時、「ランタイムを重視」または「安全性を重視」を選択することにより、設定値が自動設定されます。詳細については、10.1項を参照してください。
- (13) 「設定プロファイルの作成」が完了すると、引き続き「デバイスリストの設定」画面が表示されます。



PCBE サーバと同一サブネットワーク内で稼働中の PCBE エージェントがあれば、「検出されたデバイス」にリストが表示されます。追加するデバイスを選択し、[追加 →] ボタンをクリックし続いて [適用] ボタンをクリックします。デバイスは、通常ホスト名で表示されます。

【 PCBE エージェントが PCBE サーバと同一サブネットワーク上に存在しない場合】

「デバイス検出の設定」をクリックし、デバイス検出する IP セグメントを追加するか、[新規] ボタンをクリックして、個々にデバイスの登録を行ってください。

制限：

デバイスを[新規]で追加する場合、「127.0.0.1」または「localhost」は使用しないでください。コンソール上でのデバイス名称が正常に表示されないことがあります。また「デバイスのプロパティ」でログが参照できないことがあります。

(14) デバイスが正常に追加されたら、[閉じる]をクリックします。

制限：

[適用]ボタンをクリックした後、稀に次の画面に進まないことがあります。[キャンセル]ボタンを押し設定が適用されていない場合は、再度設定を行ってください。

補足：

Windows 2003 SP1 以降(Windows 2003 R2 を含む) / 2008 /2008 R2 の環境において、PCBE サーバをインストール後に Windows ファイアウォール機能を有効にした場合には、ネットワーク監視をする際に、下記の設定が必要となります。

[Windows 2003 SP1 以降(Windows 2003 R2 を含む) / 2008 の場合]

- ① [スタート] - [コントロールパネル] - [Windows ファイアウォール]をクリックします。
- ② Win2003/2003R2 の場合は④へ進みます。
- ③ [設定の変更]をクリックします。
- ④ [例外]タブ選択します。
- ⑤ [プログラムの追加]をクリックします。
- ⑥ 下記のファイルを指定、[OK] ボタンをクリックします。
<PCBE インストールフォルダ>¥APC¥PowerChute Business Edition¥server¥pbserver.exe
- ⑦ 一覧に「PowerChuteBusinessEdition サーバ」が表示され、チェックボックスがオンになっていることを確認し、[OK] ボタンをクリックします。
- ⑧ 「APCPBEServer サービス」 (pbserver.exe) を再起動します (またはシステムを再起動します)。

[Windows 2008 R2 の場合]

- ① [スタート] - [コントロールパネル] - [システムのセキュリティ] - [Windows ファイアウォール]をクリックします。
- ② [Windows ファイアウォールを介したプログラムまたは機能を許可する]をクリックします。
- ③ [別のプログラムの許可]をクリックします。
- ④ 下記のファイルを指定、[追加] ボタンをクリックします。
<PCBE インストールフォルダ>¥APC¥PowerChute Business Edition¥agent¥pbeagent.exe
- ⑤ 一覧に「PowerChuteBusinessEdition サーバ」が表示され、チェックボックスがオンになっていることを確認し、[OK] ボタンをクリックします。
- ⑥ 「APCPBEServer サービス」 (pbserver.exe) を再起動します (またはシステムを再起動します)。

4. 4 PCBE コンソールのインストール

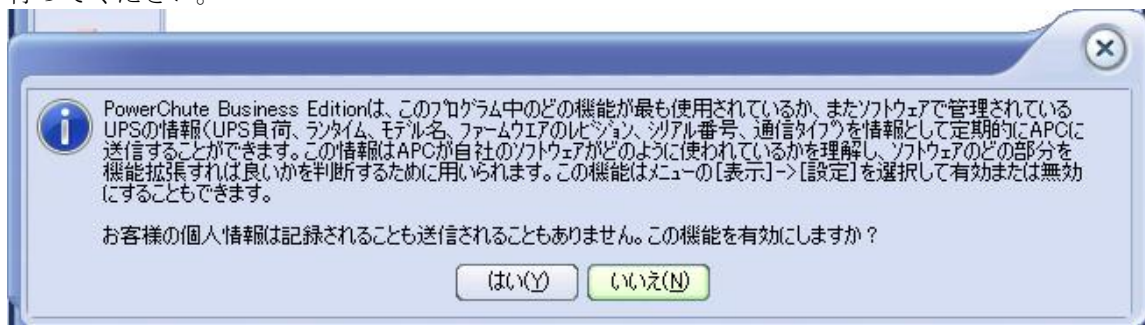
4. 4. 1 インストール前の準備作業

- (1) PCBE コンソールをインストールするシステム装置の Windows のネットワーク設定(IP アドレス) はインストール前に完了させておいてください。
- (2) PCBE コンソールをインストールする前に、LAN の状態を「有効」(システム装置に LAN ケーブルを接続し、先につながる HUB も稼動状態にする。DHCP より IP アドレス取得が行われる場合には、DHCP によるアドレス取得がされた状態にする。) にしておいてください。

4. 4. 2 インストール手順

- (1) 「Administrator」でログインする。

- (2) PCBE の CD-ROM を CD-ROM 装置に入れる。
- (3) しばらくすると、「APC PowerChute Business Edition のセットアップ」画面が起動します。
画面が表示されない場合には、[スタート]->[ファイル名を指定して実行]で
「F:¥Windows¥setup.exe」と入力し、[OK]をクリックしてください。
(F: は、CD-ROM ドライブ名)
- (4) [製品のインストール] をクリックします。
- (5) 「Windows コンソール」の[Install]ボタンをクリックします。
- (6) 以降、画面の指示に従いインストールを行います。
- (7) インストールが完了すると、ログイン画面が表示されます。
- (8) インストール後の初回起動時のみ、下記のメッセージが表示されます。必要に応じて設定を行ってください。



- (9) PCBE エージェント、PCBE サーバで設定した 「ユーザ名」、「パスワード」を入力し
「サーバ」には PCBE サーバの IP アドレスを入力して、[接続] をクリックします。
- (10) PCBE コンソール画面が起動します。

5 . アンインストール

アンインストール手順は以下のとおりです。

【Windows2003/2003 R2 の場合】

[スタート] -> [コントロールパネル] -> [プログラムの追加と削除] でアンインストールするプログラムを指定して [変更と削除] を行います。

【Windows2008 の場合】

[スタート] -> [コントロールパネル] -> [プログラムと機能] でアンインストールするプログラムを指定して [アンインストール] を行います。

【Windows2008 R2 の場合】

[スタート] -> [コントロールパネル] -> [プログラム] -> [プログラムと機能] でアンインストールするプログラムを指定して [アンインストール] を行います。

補足：

PCBE エージェント、PCBE サーバ、PCBE コンソールのアンインストール順番については特に制約はありません。

制限：

- ・ PCBE エージェント、PCBE サーバ、PCBE コンソールをアンインストールする場合には、PCBE コンソールを終了してからにしてください。PCBE コンソールから接続中にアンインストールを

行うと、インストールフォルダ（規定では、「**C:¥Program Files¥APC¥PowerChute Business Edition**」）以下の一部のファイルが削除されない場合があります。システム装置を再起動してもこれらのファイルが残る場合は、必要に応じて手動でファイルを削除してください。

- 製品のアンインストール後、下記のパス（デフォルトインストールの場合）が削除されない場合がありますが、これは必要に応じて手動で削除してください。

C:¥Program Files (x86)¥jre1.5.0_xx

（xx はインストールした JRE のバージョンにより変わります）

6 . 使用上の注意事項

6. 1 PCBE 全般について

(1) PCBE ログイン時の「ユーザ名」、「パスワード」

インストール時に設定した「ユーザ名」、「パスワード」に誤りがあった場合、PCBE サーバと PCBE エージェントでは、再インストールが必要となります。

(2) 接続数

PCBE サーバが管理できる PCBE エージェントは最大 25 台です。

PCBE サーバに接続できる PCBE コンソールについては接続数の制限はありません。

同時接続も可能ですが、設定変更が個々の PCBE コンソールから同時に行える点にご注意ください。

(3) ポップアップメッセージ

- ・設定プロファイルで「ブロードキャスト通知の設定」を有効にした場合、メッセージは PCBE サーバから発信されます。従って、「ドメイン全体」を選択した場合には、PCBE サーバ に接続されているネットワークセグメントのシステム装置にのみメッセージが通知されます。

別のネットワークセグメントのシステム装置に通知が必要な場合には、「特定のアドレス」を選択し設定を行ってください。ただし、設定できるのは 1 台のみとなります。

制限：

使用できる文字数は、通知元（サーバコンポーネントがインストールされているマシンのホスト名）と通知先ホスト名の文字数の合計が 50 バイト以内となります。電源イベントのポップアップメッセージの通知元と通知先の合計が 51 バイト以上を指定すると、ポップアップメッセージが正常に送信されない場合があります。

- ・ブロードキャストメッセージは、Windows のメッセンジャーサービスを介して通知されます。通知は UDP で行われるため、「ドメイン全体」を選択した場合には、メッセージ受信対象の Windows システム装置すべてがかならず通知をポップアップ表示するわけではありません。また、同一メッセージが複数ポップアップ表示される場合があります。
- ・WindowsXP/2003/2003R 2 は、デフォルトで「Messenger」サービスが「無効」となっているためポップアップメッセージを受け取ることができません。ポップアップメッセージを受信する必要がある場合には「スタートアップの種類」を「自動」に変更し、「Messenger」サービスを「開始」してください。また、WindowsXP SP2 環境および、Windows2003 SP1 以降(Windows 2003 R2 を含む)の環境で Window ファイヤウォールを有効にしている環境では、ポップアップメッセージをリモート マシン上のサーバから受信するには、Windows ファイアウォールの例外リストの「ファイルとプリンタの共有」を有効にする必要があります。
- ・WindowsVista/2008/2008 R2 では、Messenger サービスがサポートされないため、ポップアップメッセージの受信や、PCBE サーバをインストールした場合の「ブロードキャスト」によるメッセージの送信を行うことはできません。
- ・メッセージが複数個出ている場合、重なって表示されます。従って、最新のメッセージは後ろに隠れているため、現在見えているメッセージが最新でない場合があります。また、重なったメッセージが多くなると、「OK」ボタンを押しても最新のメッセージまで表示されない場合があります。ご注意ください。

(4) Windows2003/2003R 2/2008/2008 R2 環境で電源障害またはスケジュールによる、「シャットダウン」または「シャットダウンと電源オフ」を行った場合、イベントログに以下のログが出力されま

す。

[Win2003/2003R2 環境の場合]

- シャットダウンタイプの設定が「シャットダウン」の場合
「次の理由で、プロセス **winlogon.exe** は、ユーザー **NT AUTHORITY\SYSTEM** の代わりに、コンピュータ <コンピュータ名> の シャットダウンを始めました： レガシ API シャットダウン
理由コード： **0x80070000**
シャットダウンの種類： 電源を切る
コメント： 」
- シャットダウンタイプの設定が「シャットダウンと電源オフ」の場合
「次の理由で、プロセス **shutdown.exe** は、ユーザー **NT AUTHORITY\SYSTEM** の代わりに、コンピュータ <コンピュータ名> の シャットダウンを始めました： この理由のタイトルが見つかりません
理由コード： **0xffffffff**
シャットダウンの種類： 電源を切る
コメント： 」

[Win2008/2008 R2 環境の場合]

- シャットダウンタイプの設定が「シャットダウン」の場合 (Win2008 32bit 版)
「次の理由で、
プロセス **C:\Program Files\APC\PowerChute Business Edition\agent\bin\shutdown.exe** (<コンピュータ名>) は、ユーザー **NT AUTHORITY\SYSTEM** の代わりに、コンピュータ <コンピュータ名> の シャットダウン を始めました： レガシ API シャットダウン
理由コード： **0x80070000**
シャットダウンの種類： シャットダウン
コメント： 」
- シャットダウンタイプの設定が「シャットダウン」の場合 (Win2008 64bit 版)
「次の理由で、
プロセス **C:\Program Files (x86)\APC\PowerChute Business Edition\agent\bin\shutdown.exe** (<コンピュータ名>) は、ユーザー **NT AUTHORITY\SYSTEM** の代わりに、コンピュータ <コンピュータ名> の シャットダウン を始めました： レガシ API シャットダウン
理由コード： **0x80070000**
シャットダウンの種類： シャットダウン
コメント： 」
- シャットダウンタイプの設定が「シャットダウンと電源オフ」の場合 (Win2008 32bit 版)
「次の理由で、プロセス **shutdown.exe** は、ユーザー **NT AUTHORITY\SYSTEM** の代わりに、コンピュータ <コンピュータ名> の 電源を切る を始めました： この理由のタイトルが見つかりません
理由コード： **0xffffffff**
シャットダウンの種類： 電源を切る
コメント： 」
- シャットダウンタイプの設定が「シャットダウンと電源オフ」の場合 (Win2008 64bit 版)
「次の理由で、プロセス **wininit.exe** (<コンピュータ名>または<IP アドレス>) は、ユーザー **NT AUTHORITY\SYSTEM** の代わりに、コンピュータ <コンピュータ名> の 電源を切る を始めました： レガシ API シャットダウン
理由コード： **0x80070000**
シャットダウンの種類： 電源を切る
コメント： 」

(5) UPS 装置電源回復時のシステム装置の電源ON

障害復旧時の UPS 装置からの電源供給再開や、スケジュール運転時の電源供給再開でシステム装置の電源をONにするためには、シャットダウンタイプを「シャットダウン」に設定することに加え、システム装置のシステム環境の設定変更が必要になる場合があります。詳しくは、システム装置付属のハードウェアマニュアルにてご確認ください。

Windows2003/2003R 2/2008/2008 R2 環境では、BIOS の設定で電源復旧時に常に Power ON となるよう設定の変更が必要です。

制限：

一部の機種で、電源復旧時に常に Power ON と設定する機能が BIOS がないため、UPS 装置が電源回復した場合やスケジュール運転時にシステム装置が起動しないものがあります。

障害復旧時の UPS 装置からの電源供給再開時、UPS スリープ時間が短い場合、UPS に接続するシステム装置によっては、BIOS の設定で電源復旧時に常に Power ON となるような設定にしているにもかかわらず、システム装置が起動しないものがあります。UPS スリープ時間を 30 秒以上確保する必要がありますので、「UPS 再起動待機時間」を 1 分以上の値に設定してください。

(6) 「セルフテスト」および「ローバッテリー信号時間」の参照や変更方法

「セルフテスト」および「ローバッテリー信号時間」の参照や変更は、PCBE エージェント WebUI 機能で行います。詳細は「6. 5 PCBE エージェント WebUI」をご覧ください。

(7) 商用電源の入力電圧波形に歪みがある場合、UPS のイベントログに“Distorted Input”が採取されます。“Distorted Input”が頻繁に採取される場合には商用電源の設備を見直すか、現地電力品質 (Local Power Quality) を「Fair」に変更してください。現地電力品質 (Local Power Quality) の変更手順は UPS 本体添付マニュアルを参照ください。

(8) UPS 交換時の注意

設定値によっては、UPS 本体が保持している値がありますので、UPS 本体を交換する際には、PCBE エージェントをアンインストールし、「4. 2 PCBE エージェントのインストール」を参照の上、再度インストールおよび動作設定を行ってください。

UPS が保持している設定値については、UPS 本体添付マニュアルを参照してください。

「セルフテスト」および「ローバッテリー信号時間」については WebUI 機能で見直しを行ってください。その他の設定値については、PCBE から見直しを行ってください。

(9) Windows 2003 SP1 以降(Windows 2003 R2 を含む) / 2008 / 2008 R2 の環境において Windows ファイアウォール機能を有効にしている場合

Windows 2003 SP1 以降(Windows 2003 R2 を含む) / 2008/ 2008 R2 の環境において Windows ファイアウォール機能を有効にしている場合には、ネットワーク監視をする際に、該当のサービス (APCPBEAgent サービスおよび APCPBEServer サービス) を Windows ファイアウォールの例外リストに登録する必要があります。設定手順は、各コンポーネントのインストールの項 (「4. 2 PCBE エージェントのインストール」および「4. 3 PCBE サーバのインストール」) をご覧ください。

補足：

エージェント、サーバおよびコンソール全てのコンポーネントを同一マシン上にインストールして運用する場合には、例外リストに上記実行プログラムを追加する必要はありません。

ただし、コンソールログイン画面でローカルサーバの検出をすることはできません。127.0.0.1

または **localhost** がログイン先として表示されるので、そのままログインするか、手動でローカルマシンのホスト名を入力してログインすることも可能です。

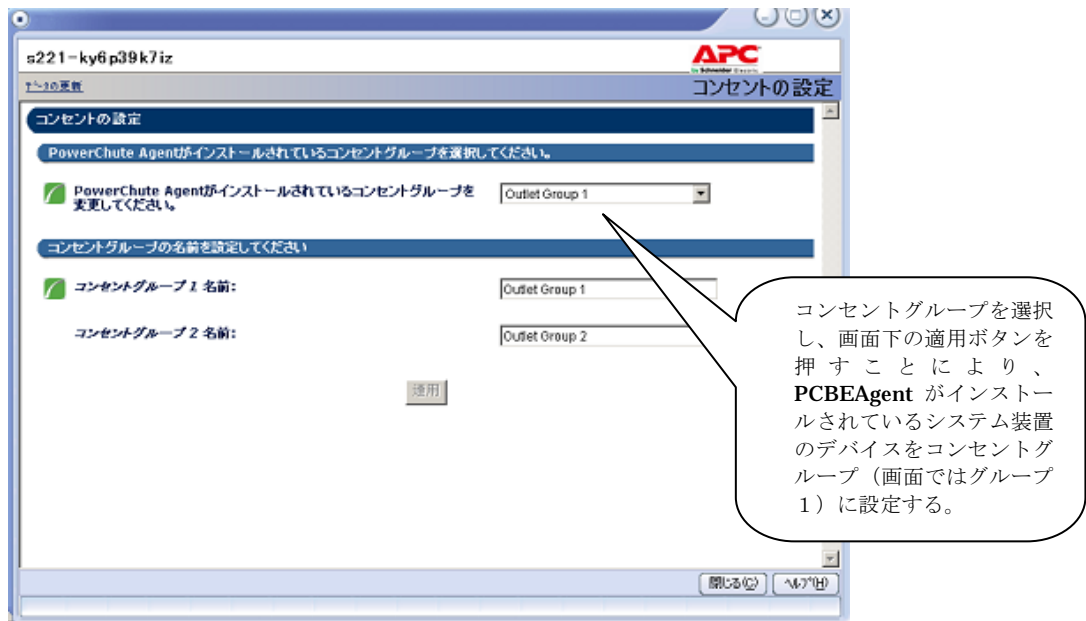
(10) Windows 2003 SP1 以降(Windows 2003 R2 を含む)/2008/ 2008 R2 の環境において MIB ブラウザからエージェントにアクセスしている場合の設定
MIB ブラウザから、エージェントにアクセスして設定や情報の取得を行う場合には、'**C:\WINDOWS\system32\snmp.exe**' をファイアウォールの例外リストに追加することが必要です。

(11) 電源復旧時に **UPS** のバッテリー充電が少なくなっている場合に、**UPS** に接続している装置の使用電力の増減にともない、PCBE エージェントをインストールしている装置にて、「利用できるランタイムが不十分」、「利用できるランタイムが十分にあります」が繰り返し記録されることがあります。UPS のバッテリーが十分に充電されたあと、PCBE コンソール上で装置のステータスが「正常」となっていることをご確認ください。

(12) システム装置に **PCBE** エージェントをインストールした際、最初のログイン状態ではデバイスのステータスは以下となります。(注：日立型式GQ-BURAx x x x NNx 使用時のみ)



「デバイスのプロパティ」→「コンタクトの設定」→「コンタクトの設定」よりコンタクトグループの設定を行うことでステータスは正常表示となります。



6. 2 PCBE コンソール

- (1) PCBE コンソール機能の詳細については、PCBE コンソールのヘルプまたは、
C:\¥Programfiles¥APC¥PowerChute Business Edition¥console¥console_jp.chm
 をご覧ください。
- (2) PCBE コンソールに表示されているデバイスは、OSのシャットダウンが実施されるとホスト名表示からIPアドレス表示に変わることがあります。
- (3) 電源障害発生時に「ステータス」表示が「正常」から「警告」に変わりますが、**Advanced Port**に接続されているデバイスは、**Basic Port**に接続されているデバイスに比べ、「警告」状態への切り替わりが**15秒程度遅れます**。

制限：

PCBE エージェントとサーバが同一システム装置にインストールされている場合、デバイスの追加時に、[新規]を選択し「**127.0.0.1**」または「**localhost**」を使用して登録すると、リモートのPCBE コンソールを使用時に、該当のシステム装置の「ホスト名」が正常に表示されない場合があります。

Windows Vista/2008/2008R2 に PCBE コンソールをインストールした場合、PCBE コンソールのログイン画面の「ユーザ名とパスワードを保存する」にチェックを入れて使用すると、稀に PCBE コンソール起動時にアプリケーションエラーが発生します。この場合は上記チェックを外してご使用下さい。

6. 2. 1 デバイスのプロパティ

- ・表示される項目は、**Advanced Port**に接続されたものと、**Basic Port**に接続されたもので異なります。また、「詳細項目の表示」を有効にすることで表示できる項目が増えます。
- ・各種パラメータを設定した際に以下のメッセージが表示された場合は、何らかの要因でPCBE エージェント、PCBE サーバ用の設定ファイルへの書き込みが行えないことが考えられます。



以下のファイルが「読み取り専用」になっていないかを確認してください。

C:\Programfiles\APC\PowerChute Business Edition\agent\m11.cfg

C:\Programfiles\APC\PowerChute Business Edition\server\m11.cfg

また、ウイルススキャンソフトがインストールされている場合には、上記2つのファイルを検索対象から除外してみてください。

■ 全般

- バッテリステータス
「データの更新」をクリックしないと最新の状態に変わりません
- **UPS** ステータス
「データの更新」をクリックしないと最新の状態に変わりません。
- 電源パラメータ（「詳細項目の表示」を有効化で表示）
「バッテリー切替値(上限)」と、「バッテリー切替値(下限)」は、デフォルト設定で問題ありませんが、変更を行う場合は接続される機器の保証されるAC入力電圧を確認の上、実施してください。

➤

制限：

PCBE の各設定値は、ソフトウェア側に設定されているパラメータと、**UPS** 本体に設定されているパラメータの2種類あります。**UPS** 本体交換後は、**UPS** 本体側に設定されているパラメータがデフォルト値になるため、以下のパラメータの再設定を行ってください。

コンソール画面より、

- ・「デバイスのプロパティ」－「全般」－「電源パラメータ」の全て
- ・「デバイスのプロパティ」－「シャットダウン」－「シャットダウンシーケンス」－「OS一期間」
- ・「デバイスのプロパティ」－「シャットダウン」－「電源障害」－「電源回復時の**UPS**再起動」

■ シャットダウン

- シャットダウンシーケンス
- (1) 「OS」のシャットダウンに必要な「期間」で選択できる時間は、接続する**UPS**装置によって異なります。**BasicPort**に接続されたシステム装置では「5:00」から変更できませんが、実際に**UPS**が停止する時間は、**AdvancedPort**に接続されたシステム装置の設定値に依存します。
- (2) コマンドファイルの作成について
コマンドファイルについては、
C:\Programfiles\APC\PowerChute Business Edition\agent\cmdfiles\default.cmd
に詳細が説明されていますので、作成する場合には必ずお読みください。
- (3) 「コマンドファイル」の実行に必要な「期間」
 - ・コマンドファイルの実行が指定時間内に完了しない場合、処理が途中で打ち切れ**OS**のシャットダウンが実行されます。
 - ・コマンドファイルの実行が指定時間以内に終了しても、指定された時間の間はOSシャットダウン処理を保留します。

制限：

電源障害時、またはスケジューリングシャットダウン時に、**OS**のイベントログに「予期せぬシャットダウン・・・」のログが残る場合があります。その際は、

「OS」のシャットダウンに必要な「期間」 > 実際に**OS**シャットダウンにかかる時間となっているか確認してください。なっていないようであれば、「OS」のシャットダウンに必要な「期間」の設定値を十分な長さに設定してください。

➤ スケジュールシャットダウン

(1) **Basic Port** に接続されたシステム装置でのスケジュールシャットダウン

- **Basic Port** に接続されたシステム装置毎にスケジュールシャットダウンの設定が可能です。ただし、再起動設定はできません。また、**UPS** 装置も **Sleep** 状態にはなりません。
- 設定した 1 台のみが指定された時刻にシャットダウンされます
- 再起動や **UPS** 装置を **Sleep** 状態にするためには、**Advanced Port** のシステム装置にスケジュール設定する必要があります。
- **Basic Port** に接続されたシステム装置のスケジュールシャットダウンよりも **Advanced Port** のシステム装置のシャットダウンスケジュールが優先されますのでご注意ください。

(**Advanced Port** のシステム装置のシャットダウンではすべての **Basic Port** のシステム装置も同時にシャットダウンが行われます)

- (2) スケジュールシャットダウンで設定したスケジュールは、約 **10** 分前にリストから削除されます。また、その時点でイベントログに「管理上のシャットダウンスケジュール済」が記録されます。この状態でシャットダウンをキャンセルする場合には、**PCBE** コンソールのトップ画面にてホスト名をクリックし、画面下に表示される「シャットダウンのキャンセル」を使用してください。
- (3) セルフテストや **UPS** ランタイム較正はスケジュール設定できません。定期的に行われるセルフテストの周期は、インストール時に選択した電源保護方針によって異なります。

項番	電源保護方針	セルフテストサイクル
1	ランタイム重視	14 日
2	安全性重視	7 日

- (4) 「再起動の日付/時間」に設定できる最大期間は、**14 日 23 時間 54 分**までです。

制限：

Basic Port 接続のマシンで、

「デバイスのプロパティ」－「シャットダウン」－「電源障害」－「電源障害時のシャットダウン開始」を「即時」に設定していると、**Advanced Port** 接続のマシンで設定したスケジュールシャットダウン実行時に、**Basic Port** 接続のマシンで「ランタイム不足が検出されました」を検出し、設定したシャットダウンシーケンスが実行されずに、直ちに **OS** のシャットダウンが開始されることがあります。上記の設定値を「即時」以外に設定してご使用ください。

➤ 電源障害（「詳細項目の表示」を有効化で表示）

- (1) 「電源障害時のシャットダウン開始」設定を変更しても変更値が有効にならないことが稀に発生します。設定値の変更を複数回繰り返した場合には、変更対象のシステム装置上で「**APC PBE Agent**」サービスの「再起動」を行うことを推奨いたします。

障害復旧時の **UPS** 装置からの電源供給再開時、**UPS** スリープ時間が短い場合、**UPS** に接続するシステム装置によっては、**BIOS** の設定で電源復旧時に常に **Power ON** となるような設定にしている

にもかかわらず、システム装置が起動しないものがあります。**UPS** スリープ時間を **30** 秒以上確保する必要がありますので、「**UPS** 再起動待機時間」を **1** 分以上の値に設定してください。

- (2) 「デバイスのプロパティ」－「シャットダウン」－「電源障害」－「電源障害時のシャットダウン開始」を「即時」または「ランタイム上限」に設定している場合に、「**UPS** のバッテリー状態が次の時間経過後」にグレーアウトして表示されている設定時間が経過後に、**PCBE** コンソール上の管理対象であるシステム装置のステータスが、「バッテリー状態しきい値超過」となる場合がありますが、動作には影響ありません。

せん。

▶ シャットダウンタイプ

PCBE 8.0.1Basic 版では、シャットダウン実行時のシャットダウンタイプを選択することができます。

Windows2003/2003R2/2008/2008 R2 では、BIOS の設定値により動作が異なることがありますので注意が必要です。

表 6-1 シャットダウンタイプと電源復旧時の自動起動の可否

シャットダウンタイプ	BIOS の PowerON 設定 (*1)	Windows2003 /2003R2	Windows2008 /2008 R2
シャットダウン(デフォルト)	デフォルト設定(*2)	起動しない (*4)	起動しない(*4)
	ON 設定(*3)	起動する	起動する
シャットダウンと電源オフ	デフォルト設定(*2)	起動しない	起動しない
	ON 設定(*3)	起動する	起動する
休止(*5)	デフォルト設定(*2)	未サポート	未サポート
	ON 設定(*3)	未サポート	未サポート

*1 : Windows2003/2003R2/2008/2008 R2 環境では、電源供給再開でシステム装置の電源をONにするためには、BIOS の設定で電源復旧時に常に Power ON となるよう設定 (ON/Enable など) の変更が必要です。

*2 : 電源復旧時に、前回の OS シャットダウン時の電源状態に復旧させる設定です (Pre-state/Last-state /Auto など)。

*3 : 電源復旧時に、常に Power ON とする設定です (ON/Enable など)。

*4 : 一部の機種で、電源復旧時に常に Power ON と設定する機能が BIOS にないため、UPS 装置が電源回復した場合やスケジュール運転時にシステム装置が起動しないものがあります。

BIOS 上の電源復旧時の PowerON 設定が、「Pre-state」、「Last-state」、「Auto」などの設定が可能な機種では、[ローカル コンピュータ ポリシー]の設定を変更することで、電源復旧時に自動起動することが可能です。

*5 : Windows OS 上で休止機能を有効に設定することで表示されますが、HA8000 ではスタンバイ/休止は未サポートですので、PCBE においても未サポートとなります。

制限 :

一部の機種で、電源復旧時に常に Power ON と設定する機能が BIOS にないため、UPS 装置が電源回復した場合やスケジュール運転時にシステム装置が起動しないものがあります。

Windows2003SP1 以降(Windows 2003 R2 を含む)/2008/2008 R2 の環境では、BIOS 上の電源復旧時の PowerON 設定が、「Pre-state」、「Last-state」、「Auto」などの設定が可能な機種にて、下記の設定を

行うことでシステムの再起動が可能となります。尚、この設定は、シャットダウンタイプにて「休止」または「シャットダウンと電源オフ」を選択した場合には有効になりません。

- ① [スタート] - [ファイル名を指定して実行]をクリックします。
- ② 「gpedit.msc」 と入力して [OK] ボタンをクリックします。
- ③ 「グループポリシー オブジェクト エディタ」(Win2008/2008 R2 の場合は「ローカル グループポリシーエディタ」) が表示されるので、[ローカル コンピュータ ポリシー] - [コンピュータの構成] - [管理用テンプレート] の[+] をクリックします。

- ④ [システム]を選択します。
- ⑤ 「Windows システムのシャットダウンのときに電源を切らない」を右クリックし、「プロパティ」(Windows2008 R2 の場合は「編集」)をクリックします。
- ⑥ 「有効」を選択し、[OK]をクリックします。
- ⑦ [グループポリシー オブジェクト エディタ] (Win2008/2008 R2 の場合は「ローカル グループポリシーエディタ」)を終了します。

上記の設定を行うことで、PCBE による OS シャットダウンが行われた後には、画面上は以下の表示となり、UPS の停止にともない、装置が自動で停止する動作となります。

Windows2003SP1(R2 含む)以降の場合：「コンピュータの電源を切ることができます。」

Windows2008/2008 R2 の場合：「It is now safe to turn off your computer.」

※Win2008/2008 R2 が動作する一部の装置にて。「It is now safe to turn off your computer.」が表示されるタイミングで、ディスプレイの画面表示がされない状態となるものがあります。動作上は問題なく、電源復旧時には装置は自動で起動します。

■ 診断（「詳細項目の表示」を有効化で表示）

➤ セルフテスト

PCBE エージェントインストール後の最初の1回のみ、「セルフテスト」の実行結果が「不明」のままとなる場合があります。[デバイスのプロパティ]を閉じてから再度開き、「UPSセルフテスト」の「結果」が、「成功」となっていることを確認してください。

➤ UPS ランタイム較正

- (1) 拡張ユニットが UPS に搭載あるいは、接続されている場合には UPS ランタイム較正は実行できません。
- (2) UPS ランタイム較正を実施する場合には、「バッテリステータス」の「容量」が 100%であることが必要です。
- (3) UPS ランタイム較正は、UPS 装置のバッテリーをかなり消耗させてしまいます。
- (4) PCBE エージェントインストール後の最初の1回のみ、「UPS ランタイム較正」の実行結果が「不明」のままとなる場合があります。[デバイスのプロパティ]を閉じてから再度開き、「UPS ランタイム較正」の「結果」が、「成功」となっていることを確認してください。

■ 通信

➤ UPS の通信

- (1) シグナリングタイプおよびポートを変更する際には必ず先に通信ケーブルを外し、変更作業を行なってください。その後「適用」ボタンをクリックし、続いて「OK」を押し、新しい通信ケーブルを接続してください。
- (2) シグナリングタイプおよびポートの変更後にデバイスのプロパティ内のデータを更新するには、デバイスのプロパティを閉じ、コンソールのツールバーに表示される更新ボタンを押してください。
- (3) シグナリングタイプの変更後は、[UPS ステータス]-[UPS ステータス]が「オンライン」となり、正常に認識されていることを確認してください。

制限：

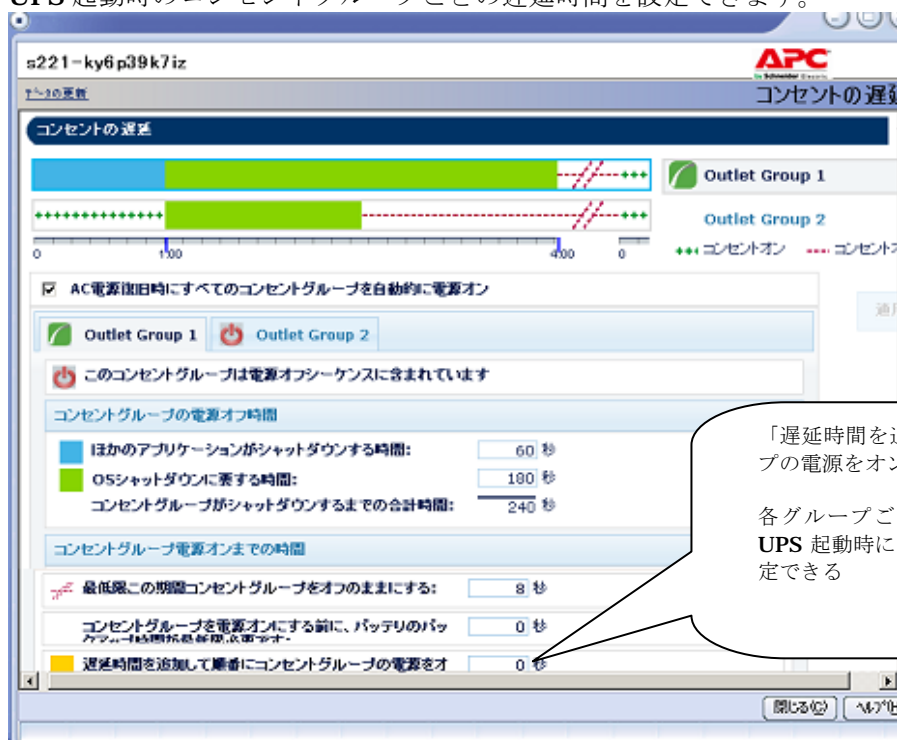
シグナリングタイプを「スマートシグナリング」(Advanced Port 接続)から「シンプルシグナリング」(Basic Port 接続)へ変更した場合、UPS ステータスが「バッテリー状態」または「エラー」なることがあります。この場合は電源障害発生時に正常に動作しないことがありますので、PCBE エージェントを再起動してください。

■ UPS 起動時のコンセントグループごとの出力オンの遅延時間

注意：日立型式GQ-BURAx x x x NNxのUPSを使用している場合のみ設定できます。

「デバイスのプロパティ」→「コンセントの設定」→「コンセントの遅延」より以下設定値を変更することにより

UPS 起動時のコンセントグループごとの遅延時間を設定できます。



6. 2. 2 リスクアセスメント

本機能を使用すると、UPSのリスク評価が行われその結果が表示されます。

- 緑、危険度が低い
- 黄、危険度は中程度
- 赤、危険度が高い

実行すると通常緑色での表示となりますが、黄、赤色で表示される場合には、下記表の項目について該当しないか確認し、該当する場合には対処する必要があります。

制限：

対処後もリスク評価の結果の表示が変わらない場合があります。リスク対処を行ったシステム装置上の「APCPBEAgent」サービスを再起動し、結果が更新されることを確認してください。

表 6-2 リスクアセスメントの表示項目と対処方法
(Help 画面に表示される説明とは一致していません)

UPS 関連情報 (help 画面 の項目)	説明	対処方法
バッテリー交換要	バッテリーが機能していません	バッテリーの確認／交換
内部温度	この 2 週間で、UPS 内部温度が 1 度は 70° C に達しました	内部温度が異常なので、環境温度をさげるか、使用を中止。
ランタイム	[シャットダウンシーケンス]オプションには、コマンドファイルの実行、アプリケーションや OS のシャットダウンを含めて、シャットダウン継続時間を設定します。この合計時間に 5 分を追加した時間が、UPS の現在のランタイムよりも長い場合、このランタイムインジケータが表示されます。	シャットダウンシーケンスでの各設定値の見直しもしくは、接続されている負荷を下げる。
負荷	UPS の「負荷」が定格容量の 80%に達しました。	ログを確認し、90%を超える場合があるなら、接続負荷を下げる。
サイトワイヤリング障害	回線障害がサイトで検出されました。	サポートされていません。
周囲温度	—	本メッセージをだすために必要なハードをサポートしていません。
周囲湿度	—	
バッテリー使用年数	バッテリーが 2.5 年間交換されていません。この問題を報告させるには、[バッテリーステータス(スマートシグナリング UPS のみ)]の[バッテリー交換日]フィールドに値を指定する必要があります。	すぐにバッテリーの交換を行ってください。交換後はバッテリー交換日の値を再設定してください。
アプリケーションシャットダウン	リスクアセスメント画面にて「！」が表示されることがあります。	「！」が表示されているアプリケーションについては、停電のイベントに合わせ、アプリケーションをシャットダウンさせるような処置を行ってください。「！」マークを回避する事は出来ません。
旧バージョンの PowerChute エージェント	1 つまたは複数のエージェントが、PowerChute サーバのバージョンよりも古い PowerChute ソフトウェアで稼動しています。	使用している管理ソフトの ver を合わせてください。
UPS 製造経過年数	UPS 本体の製造日から 2 年を経過している	UPS 稼動後 2 年を経過している様ならバッテリー交換を行ってください。交換後はバッテリー交換日の値を再設定してください。

6. 3 PCBE サーバ

PCBE サーバのサービス (APC PBE Server) を停止する必要がある場合には、PCBE コンソールが起動していないことを確認してから停止を行ってください。PCBE コンソールから接続中に PCBE サーバを停止すると、PCBE サーバサービスの、停止不可またはタイムアウトエラーとなる場合があります。

6. 4 PCBE エージェント

USB 接続は未サポートです。シリアルケーブルにてシステム装置と UPS 装置の接続を行ってください。

6. 5 PCBE エージェント WebUI

UPS 装置に保持されている「セルフテスト」「ローバッテリー信号時間」の確認や変更は PCBE コンソールでは行うことができません。「セルフテスト」「ローバッテリー信号時間」については、Advanced Port に接続されているシステム装置の PCBE エージェント WebUI を使用して設定値の確認や変更を行ってください。

補足：

- ・「セルフテスト」は、UPS の自動セルフテストの周期として使用されます。
- ・「ローバッテリー信号時間」は、UPS 装置がバッテリー状態で稼働し続けられる残り時間が設定値を下回った場合にローバッテリー信号を出すしきい値として使用されます。

制限：

- ・ PCBE エージェント WebUI は、Internet Explorer (以下 IE と省略) にて操作を行います。
Win2003x64/2008x64 では、Internet Explorer 32bit 版
("C:\Program Files (x86)\Internet Explorer\iexplore.exe) をご使用ください。
- ・ 操作を行うためには、Java Runtime Environment がインストールされている必要があります。
下記のサン・マイクロシステムズの Web サイトよりダウンロードして、インストールしてください。
(*) JRE のインストールファイルは下記いずれかの URL よりダウンロードをお願い致します。
なお、"Platform" は "Windows" を選択してください。"Windows x64" は選択しないで下さい。

また、インストールファイルは、Java™ 2 Platform Standard Edition (J2SE) 1.5.0_01 以降をご使用願います。

URL：

- ① <http://java.sun.com/j2se/1.5.0/ja/download.html>
"Java Runtime Environment (JRE) 5.0 Update xx"
- ② <http://java.sun.com/products/archive/index.html>
⇒ "JDK/JRE - 5.0" より、"5.0 update xx" を選択
※ "xx" はダウンロードするバージョンにより異なります。

- ・ PCBE エージェント WebUI は、以下の環境にて操作が可能です。
WindowsXP/2003/2003R2 上の Internet Explorer 6.0 以降
WindowsVista/2008/2008 R2 上の Internet Explorer 7.0 以降
- ・ WindowsXP/2003/2003R2 では、IE のセキュリティ強化機能により警告画面が表示され、WebUI が表示されないことがあります。その場合は、IE の [インターネットオプション] - [セキュリティ] タブを開き、接続先の URL を「信頼済みのサイト」のゾーンに [追加] するか、

「インターネット」のセキュリティレベルを「中」(Internet Explorer 7.0の場合は[中高])にしてください。

「信頼済みのサイト」のゾーンに[追加]する際に、

「このゾーンのサイトにはすべてサーバーの確認(https:)を必要とする」チェックボックスにチェックが入っている場合は、チェックを外した上でサイトの登録を行ってください。

- PCBE エージェント WebUI は、「ローバタリ信号時間」の確認、変更用途にご使用ください。その他の項目を変更した場合、PCBE コンソールの設定項目との不一致が発生しUPS 電源管理に不都合が発生する可能性がありますのでご注意ください。

■ 設定手順

(1) 上記制限に一致する環境のシステム装置で Internet Explorer を起動します。

(2) 下記 URL を指定します。

http://xxx.xxx.xxx.xxx:3052

(xxx.xxx.xxx.xxx は、接続する PCBE エージェントのインストールされたシステム装置の IP アドレスを入力してください)

(3) 下記ログイン画面が表示されたら PCBE エージェントインストール時に設定した「ユーザ名」と「パスワード」を入力します。



(4) 管理画面が表示されますので、各設定値については、以下の場所を参照してください。

「セルフテスト」：「(UPS モデル名)」

- 「診断」
- 「セルフテストの実行」

「ローバタリ信号時間」：「保護されたシステム」

- 「シャットダウンの設定」
- 「シャットダウンシーケンスサマリ」
- 「設定」
- 「ローバタリ信号時間」

(5) 設定値をプルダウンメニューの一覧から選択します。

補足：プルダウンメニューに表示される値はUPS 装置によって異なります。

- (6) 設定後、画面下の「適用」ボタンをクリックします。
- (7) **Internet Explorer** を終了します。

7 . ユーティリティ

7. 1 UPSSleep

UPSSleep は、コマンドで実行することによって、**UPS** をスリープにする時間に関わらず、定時にサーバを自動ブートすることができます。**UPSSleep** はエージェントがインストールされているシステム装置には、標準でインストールされます。

UPSSleep の使用方法については、

C:\Program Files\APC\PowerChute Business Edition\agent\utils\UPSSleep Users Guide (Japanese).pdf
をご覧ください。

7. 2 Event Log Exporter

Event Log Exporter は、**PowerChute Business Edition** エージェントのイベントログを **ASCII** フォーマットテキストファイルに書き込むためのユーティリティです。

Event Log Exporter はエージェントがインストールされているマシンには、標準でインストールされます。

Event Log Exporter の使用方法については、

C:\Program Files\APC\PowerChute Business Edition\agent\utils\Event Log Exporter Users Guide (Japanese).pdf
をご覧ください。

8 . UPS 拡張ユニット使用時の電源障害発生時シャットダウンシーケンスについて

8. 1 コンファームモード(*1)

*1:モードは、ディップスイッチで設定を行います。詳細はUPS 拡張ユニットのマニュアルをご覧ください。

(1) 電源回復時の再起動を行う場合

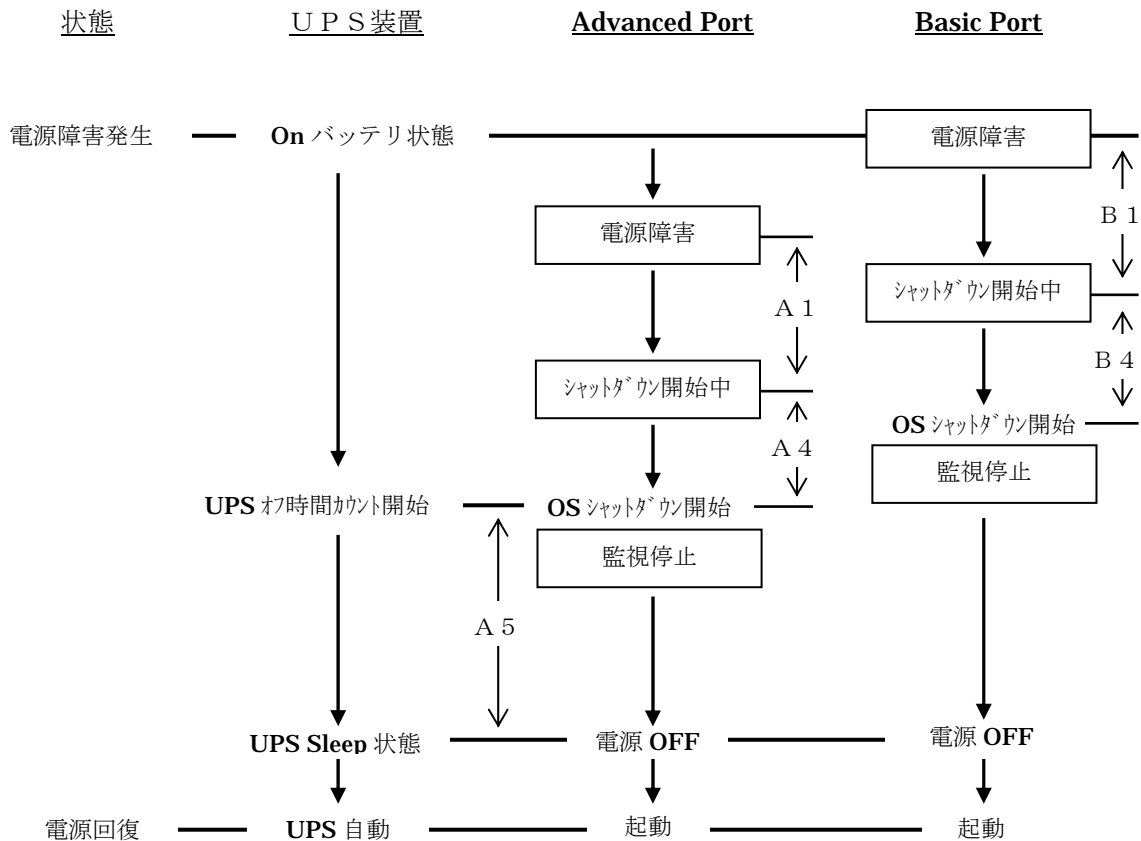
表 8-1 設定項目一覧

設定項目		Advanced Port	Basic Port
電源障害時のシャットダウン開始 (分)		A 1	B 1
コマンドファイル	待機時間 (mm:ss)	A 2	B 2
	期間 (mm:ss)	A 3	B 3
OS	待機時間 (mm:ss)	A 4 (*1)	B 4 (*2)
	期間 (mm:ss)	A 5	B 5 (*3)
電源回復時の UPS 再起動		・即時 ・バッテリーが次の容量まで充電されたとき	—

*1 : A 2 + A 3 + コマンドファイル実行期間終了後から OS シャットダウン開始までの待機時間が含まれます。

*2 : B 2 + B 3 + コマンドファイル実行期間終了後から OS シャットダウン開始までの待機時間が含まれます。

*3 : BasicPort 接続のマシンでは固定された値(5:00)ですが、実際に UPS が停止する時間は A5 に依存します。



□ は、OS のイベントログに記録されるメッセージ

(2) 電源回復時の再起動を行わない場合

表 8-2 設定項目一覧

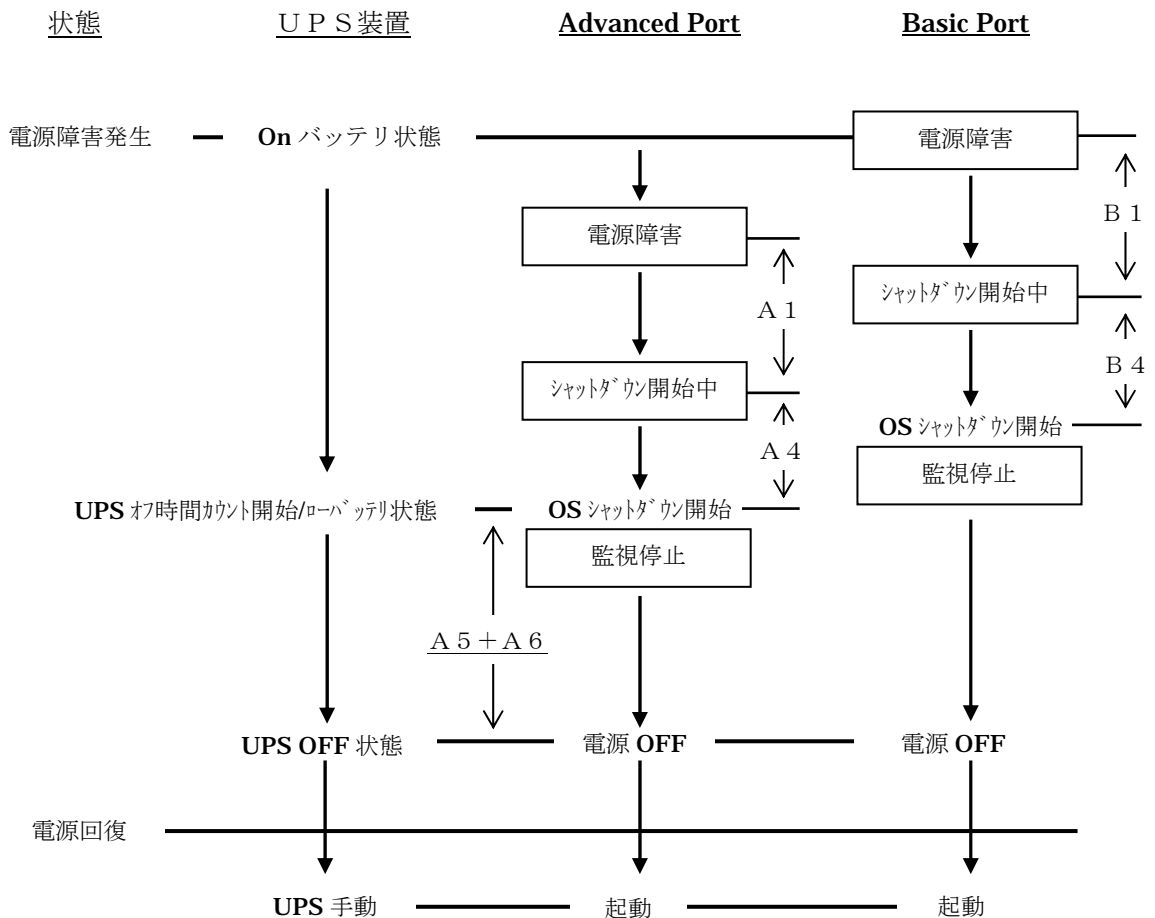
設定項目		Advanced Port	Basic Port
電源障害時のシャットダウン開始 (分)		A 1	B 1
コマンドファイル	待機時間 (mm:ss)	A 2	B 2
	期間 (mm:ss)	A 3	B 3
OS	待機時間 (mm:ss)	A 4 (*1)	B 4 (*2)
	期間 (mm:ss)	A 5	B 5 (*3)
電源回復時の UPS 再起動		しない	—
UPS ローバッテリー信号時間(分)(*4)		A 6	—

*1 : A 2 + A 3 + コマンドファイル実行期間終了後から OS シャットダウン開始までの待機時間が含まれません。

*2 : B 2 + B 3 + コマンドファイル実行期間終了後から OS シャットダウン開始までの待機時間が含まれません。

*3 : BasicPort 接続のマシンでは固定された値(5:00)ですが、実際に UPS が停止する時間は A5 に依存します。

*4 : 本設定項目は、PCBE コンソールから設定することはできません。PCBE エージェント WebUI から設定を行ってください。詳細は、「6. 5 PCBE エージェント WebUI」をご覧ください。



□ は、OS のイベントログに記録されるメッセージ

8. 2 タイマーモード(*1)

*1:モードは、ディップスイッチで設定を行います。詳細はUPS 拡張ユニットのマニュアルをご覧ください。

表 8-3 設定項目一覧

設定項目		Advanced Port	Basic Port	拡張ユニット
電源障害時のシャットダウン開始 (分)		A 1	B 1	—
コマンドファイル	待機時間 (mm:ss)	A 2	B 2	—
	期間 (mm:ss)	A 3	B 3	—
OS	待機時間 (mm:ss)	A 4 (*2)	B 4 (*3)	—
	期間 (mm:ss)	A 5	B 5 (*4)	—
電源回復時の UPS 再起動		・即時 ・バッテリーが次の容量 まで充電されたとき ・しない	—	—
UPS ローバッテリー信号時間(分)(*5)		A 6	—	—
拡張ユニットのタイマー時間(分)(*6)		—	—	T 1

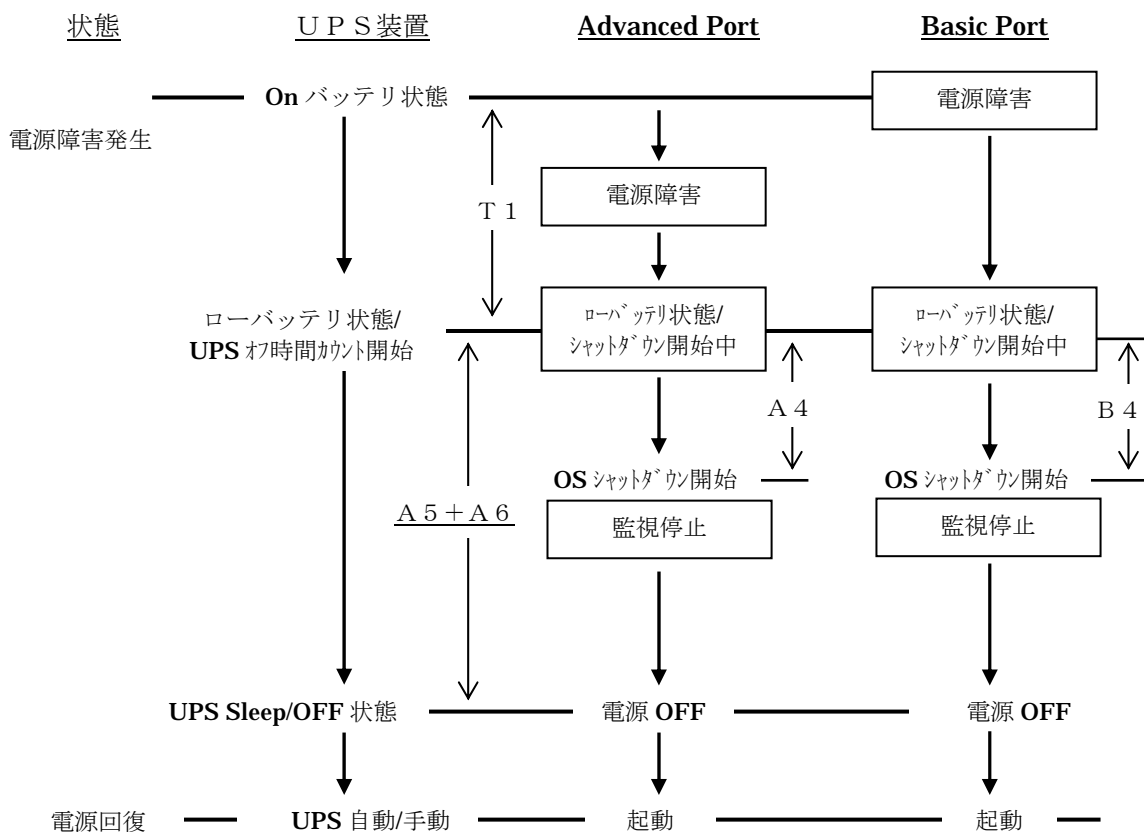
*2 : A 2 + A 3 + コマンドファイル実行期間終了後から OS シャットダウン開始までの待機時間が含まれます。

*3 : B 2 + B 3 + コマンドファイル実行期間終了後から OS シャットダウン開始までの待機時間が含まれます。

*4 : BasicPort 接続のマシンでは固定された値(5:00)ですが、実際に UPS が停止する時間は A5 に依存します。

*5 : 本設定項目は、PCBE コンソールから設定することはできません。PCBE エージェント WebUI から設定を行ってください。詳細は、「6. 5 PCBE エージェント WebUI」をご覧ください。

*6 : ディップスイッチで設定を行います。詳細は UPS 拡張ユニットのマニュアルをご覧ください。



は、OS のイベントログに記録されるメッセージ

補足：

タイマーモードは、電源障害発生から設定されたタイマー時間経過後にローバッテリー状態となります。その後、「OS」のシャットダウンに必要な「期間」(A 5)+「UPS ローバッテリー信号時間」(A 6) 経過後にシステム装置のシャットダウン状態にかかわらず UPS が **Sleep** 状態になります。従って、「OS」の「待機時間」(A 4 または B 4)+OS のシャットダウンにかかる時間(実測値)が、「OS」のシャットダウンに必要な「期間」(A 5)+「UPS ローバッテリー信号時間」(A 6) を超えないように設定を行ってください。

8. 3 UPS 拡張ユニット使用時の全般的な留意事項

- (1) 電源障害が発生し、1 台でも「シャットダウン開始中」の状態になってから電源障害が回復した場合、すべてのシステム装置はシャットダウンが行なわれます。その後、

「電源回復時の UPS 再起動」が

「即時」の場合：

UPS 装置は 1 度 **Sleep** 状態となり、すぐに電源供給を再開します。

「バッテリー充電が次の容量になった時」の場合：

UPS 装置は 1 度 **Sleep** 状態となり、容量が規定値に達した場合に電源供給を再開します。

「しない」の場合：

すべてのシステム装置がシャットダウン完了後、UPS はオフ状態となります。

上記のような場合には電源障害回復直後に、すでにシャットダウンを完了したサーバを手動で再起動しないでください。

- (2) 電源障害が発生し、すべてのシステム装置がシャットダウンを完了しても UPS 装置が **Sleep** 状態にならない場合、**Basic Port** に接続されているシステム装置に **PCBE** エージェントをインストールする際に「UPS タイプ」を「**Back-ups**」と指定したことが原因である可能性が高いと思われます。**Basic Port** に接続されたシステム装置の **PCBE** エージェントをアンインストールし、再度インストールを行ってみてください。
- (3) UPS 拡張ユニットの **Rev** によっては、セルフテスト実行時に、**Basic Port** に接続されているシステム装置に「電源障害」のログがとられる仕様になっておりますが、UPS の動作上は問題ありません。

9 . スケジュールシャットダウンシーケンスについて

9. 1 UPS 拡張ユニット未使用時

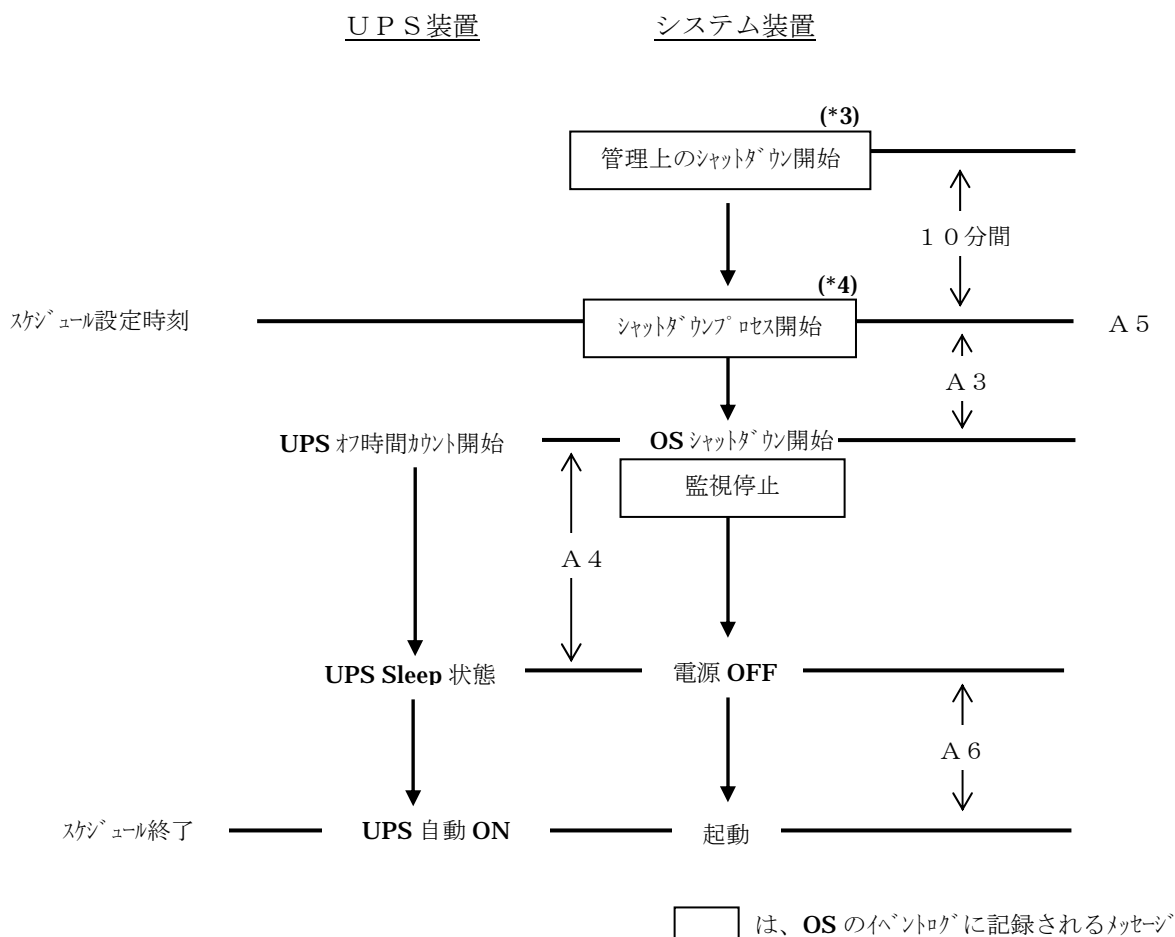
UPS 装置とシステム装置が 1 対 1 で接続されている場合の、スケジュールリング時のシャットダウンシーケンスを以下に示します。

表 9-1 設定項目一覧

設定項目		Advanced Port
コマンドファイル	待機時間 (mm:ss)	A 1
	期間 (mm:ss)	A 2
OS	待機時間 (mm:ss)	A 3 (*1)
	期間 (mm:ss)	A 4
次回のシャットダウンの日時 (スケジュール設定時刻)		A 5
再起動の日付/時間(*2)		A 6

*1 : A 1 + A 2 + コマンドファイル実行期間終了後から OS シャットダウン開始までの待機時間が含まれます。

*2 : 設定の際は日時で入力しますが、実際の設定値は UPS オフ後に再起動するまでの「期間」になります。



*3 : ログには、「(日時)に設定されている管理上のシャットダウンが開始されました。」と記録されます。

*4 : ログには、「シャットダウンプロセス開始」と記録されます。

補足 :

- UPS 装置とシステム装置が 1 対 1 で接続されている場合でも、UPS 装置のアクセサリスロットに I/F 拡張ボード (システム装置未接続) がささっている場合には、「9. 2 UPS 拡張ユニット使用時」のシャットダウンシーケンスとなります。

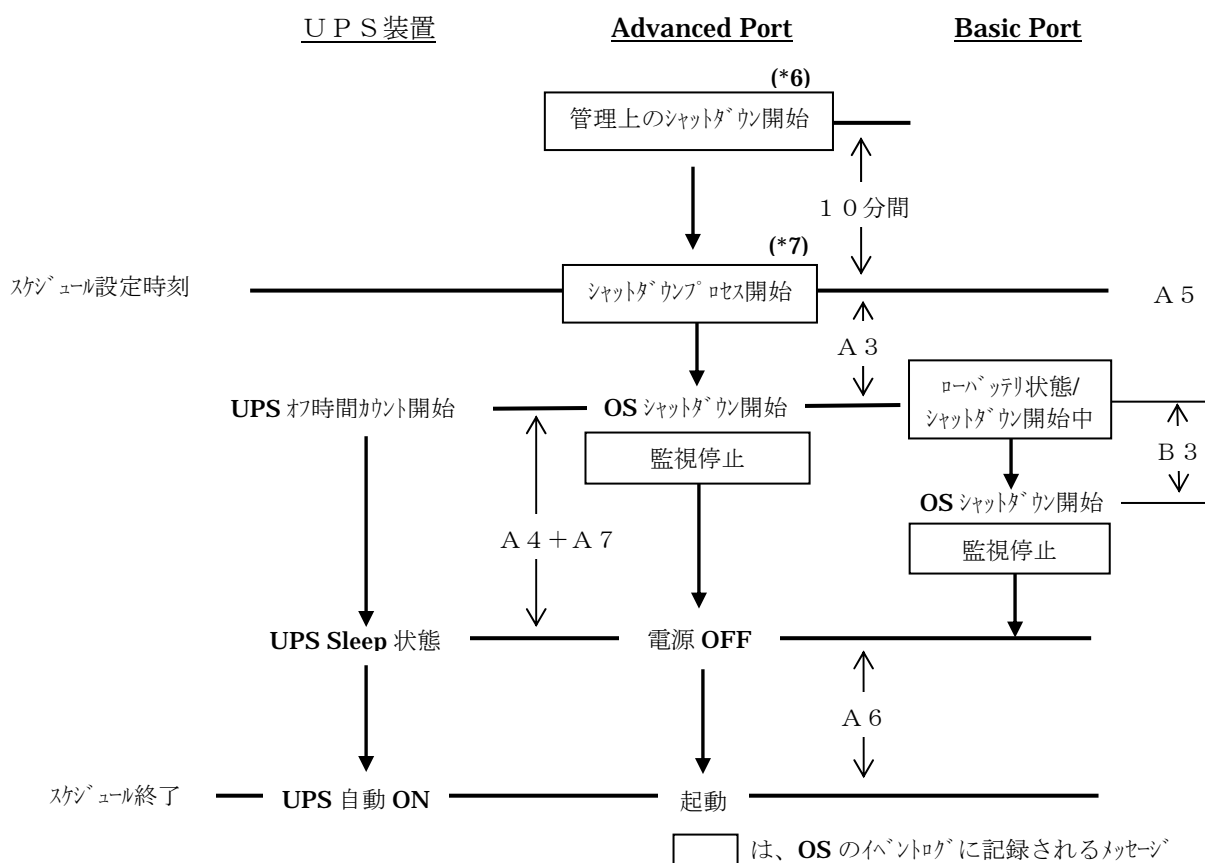
9. 2 UPS 拡張ユニット使用時

UPS 拡張ユニットを使用して、UPS 装置に複数台のシステム装置を接続した場合の、スケジューリング時のシャットダウンシーケンスを以下に示します。

表 9-2 設定項目一覧

設定項目		Advanced Port	Basic Port
コマンドファイル	待機時間 (mm:ss)	A 1	B 1
	期間 (mm:ss)	A 2	B 2
OS	待機時間 (mm:ss)	A 3 (*1)	B 3 (*2)
	期間 (mm:ss)	A 4	B 4 (*3)
次回のシャットダウンの日時 (スケジュール設定時刻)		A 5	—
再起動の日付/時間(*4)		A 6	—
UPS ローバッテリー信号時間(分) (*5)		A 7	—

- *1 : A 1 + A 2 + コマンドファイル実行期間終了後から OS シャットダウン開始までの待機時間が含まれます。
- *2 : B 1 + B 2 + コマンドファイル実行期間終了後から OS シャットダウン開始までの待機時間が含まれます。
- *3 : BasicPort 接続のマシンでは固定された値(5:00)ですが、実際に UPS が停止する時間は A4 に依存します。
- *4 : 設定の際は日時で入力しますが、実際の設定値は UPS オフ後に再起動するまでの「期間」になります。
- *5 : 本設定項目は、PCBE コンソールから設定することはできません。PCBE エージェント WebUI から設定を行ってください。詳細は、「6. 5 PCBE エージェント WebUI」をご覧ください。



- *6 : ログには、「(日時)に設定されている管理上のシャットダウンが開始されました。」と記録されます。
- *7 : ログには、「シャットダウンプロセス開始」と記録されます。

補足 :

スケジュール設定時のシャットダウン・プロセスはタイマーモード、コンファームモード、ローバッテリーモードの違いはありません。

10. その他

10.1 電源保護方針による設定値の自動設定

インストール手順において、「電源保護方針」選択時、「ランタイムを重視」または「安全性を重視」を選択することにより設定値が自動設定されます。

UPS 本体のモデルにより、選択可能なパラメータが異なりますので、下記に選択可能パラメータ及び自動設定されるデフォルト値を示します。(2011年10月時点)

<BU7076/BU7101/BU7151/BU7216/BU7234/BURAxxxxNNx>

項番	設定値名称	ランタイム重視				安全性重視				変更可		
		デフォルト値	選択可能パラメータ				デフォルト値	選択可能パラメータ				
1	出力電圧	100	100				100	100				
2	バッテリー切替値(上限)	108	108 110 112 114				108	108 110 112 114				
3	バッテリー切替値(下限)	92	86 88 90 92				92	86 88 90 92				
4	感度	高	低 中 高				高	低 中 高				
5	UPS 名	-	1-ザによる設定				-	1-ザによる設定				
6	前回のバッテリー交換日	-	1-ザによる設定				-	1-ザによる設定				
7	警告音	電源障害	無効 電源障害				電源障害	無効 電源障害				
8	セルフテストの実行	14日	14日 7日 起動時 無効				7日	14日 7日 起動時 無効				×
9	ローバッテリー信号時間	2分	2 5 8 11 14 17 20 23				2分	2 5 8 11 14 17 20 23				×
10	OS シャットダウン待機時間	180秒	090 180 270 360 450 540 630				180秒	090 180 270 360 450 540 630				
11	UPS 再起動待機(容量)	0%	0 15 30 45 60 75 90				90%	0 15 30 45 60 75 90				
12	UPS 再起動待機(時間)	0秒	000 060 120 180 240 300 360 420				0秒	000 060 120 180 240 300 360 420				

<BU7132>

項番	設定値名称	ランタイム重視				安全性重視				変更可		
		デフォルト値	選択可能パラメータ				デフォルト値	選択可能パラメータ				
1	出力電圧	100	100				100V	100				
2	バッテリー切替値(上限)	108	108 110 112 114				108V	108 110 112 114				
3	バッテリー切替値(下限)	92	81 85 90 92				92V	81 85 90 92				
4	感度	高	低 中 高				高	低 中 高				
5	UPS 名	-	1-ザによる設定				-	1-ザによる設定				
6	前回のバッテリー交換日	-	1-ザによる設定				-	1-ザによる設定				
7	警告音	電源障害	無効 ローバッテリー時 電源障害 30秒後 電源障害				電源障害 30秒後	無効 ローバッテリー時 電源障害 30秒後 電源障害				
8	セルフテストの実行	14日	14日 7日 起動時 無効				7日	14日 7日 起動時 無効				×
9	ローバッテリー信号時間	2分	02 05 07 10				2分	02 05 07 10				×
10	OS シャットダウン待機時間	180秒	020 180 300 600				180秒	020 180 300 600				
11	UPS 再起動待機(容量)	0%	00 15 50 90				90%	00 15 50 90				
12	UPS 再起動待機(時間)	0秒	000 060 180 300				0秒	000 060 180 300				

10.2 PowerChute Business Edition v6.1.2 アンインストール手順

- (1) OS をセーフモードで起動します。
システム装置を起動し、以下の画面に切り替わったときに、[F8]キーを何度か押してください。
Windows2003 の場合：BIOS の起動画面が表示されているとき
- (2) Windows 拡張オプションメニューが表示されますので、「セーフモード」を選択し、Enter キーを押します。
- (3) Windows が「セーフモード」で起動したら、「Administrator (管理者権限)」でログインします。
- (4) [スタート]→ [ファイル名を指定して実行]→ [名前]に「 regedt32 」と入力し、[OK]をクリックします。
レジストリエディタが起動したら、「HKEY_LOCAL_MACHINE\SYSTEM\CurrentControlSet\Services\SNMP」を選択した状態で、プルダウンメニューから[ファイル]→[エクスポート]を選択します
- (5) 「キーの保存」画面が表示されたら、[保存する場所]に格納先ディレクトリを指定し、[ファイル名]に「 snmpreg32 」と入力し、[ファイルの種類]に「レジストリ ハイブ ファイル」を指定し、[保存]をクリックします。
- (6) [スタート]→ [コントロールパネル]→ [プログラムの追加と削除]をクリックします。
[プログラムの追加と削除]が表示されたら、「プログラムの変更と削除」を選択します。
- (7) 「プログラムの追加と削除」画面から
「APC PowerChute Business Edition エージェント」
「APC PowerChute Business Edition サーバ」
「APC PowerChute Business Edition コンソール」
の [変更と削除] を順にクリックし、表示画面に従い削除を行います。
- (8) [×]をクリックして、「プログラムの追加と削除」を閉じます。
- (9) [スタート]→ [ファイル名を指定して実行]→ [名前]に「 regedt32 」と入力し、[OK]をクリックします。レジストリエディタが起動したら、
「HKEY_LOCAL_MACHINE\SYSTEM\CurrentControlSet\Services」
を選択し、SNMP キーの存在の有無を確認します。
SNMP キーが存在している場合には、PCBE612 のアンインストールは完了です。
レジストリエディタを終了して、システム装置の再起動を行ってください。
SNMP キーが存在していない場合には、SNMP キーの復元を行いますので、次項に進んでください。
- (10) SNMP キーのバックアップからの復元を行います。
「レジストリエディタ」で
「HKEY_LOCAL_MACHINE\SYSTEM\CurrentControlSet\Services」
を選択した状態で、プルダウンメニューから[編集]→ [新規]→ [キー] を選択します。
- (11) 「HKEY_LOCAL_MACHINE\SYSTEM\CurrentControlSet\Services」に新規のキーが作成されるので、「 SNMP 」と入力し、名前を設定します。
- (12) 次に、「HKEY_LOCAL_MACHINE\SYSTEM\CurrentControlSet\Services\SNMP」を選択した状態で、プルダウンメニューから[ファイル]→[インポート] を選択します。
- (13) 「キーの復元」画面で、「ファイルの種類」に「レジストリ ハイブ ファイル」を指定し、(5) で保存した「 snmpreg32 」を指定し[開く]をクリックします。
[警告]ダイアログが表示されたら、[はい]をクリックします。
ダイアログが表示されたら、[OK]をクリックします。
- (14) 次に、
「HKEY_LOCAL_MACHINE\SYSTEM\CurrentControlSet\Services\SNMP\Parameters\ExtensionAgents」
を選択し、右側の値一覧から、
「1」 ([種類]:REG_SZ、[データ]:SOFTWARE\APC\PowerChute Business Edition\agent\snmp) を選択します。
プルダウンメニューから[編集]→[削除]を選択します。
[警告]ダイアログが表示されたら、[はい]をクリックします。
- (15) レジストリエディタを終了して、システム装置を再起動してください。

このページは空白です

このページは空白です

PowerChute® Business Edition v9.0.1 Basic版
補足説明書 日立編

第2版 2012年11月

無断転載を禁止します

株式会社 日立製作所
ITプラットフォーム事業本部